

「男だから」にとらわれず 多様で豊かな人生の扉^あを開けよう！

～「男性にとっての男女共同参画」に関する提言～



平成26年（2014年）6月

滋賀県男女共同参画審議会

目 次

1. はじめに	1
2. 男性へのヒアリング調査の結果概要	4
3. 男性の行動と意識の現状	6
4. 男性の固定的な性別役割分担意識に影響を及ぼすもの	21
5. 変わり始めている男性の意識	24
6. 変わり始めた個人の意識 vs なかなか変わらない「世間」	29
7. 施策展開の方向性	34
8. おわりに	36
9. 検討の概要	37

1. はじめに

これまで、男女共同参画社会の実現に向けて、女性の地位向上や社会参画の促進とともに、男性にとっての男女共同参画の意義と責任や、地域・家庭等への男性の参画を重視した広報・啓発にも取り組まれてきましたが、固定的な性別役割分担意識は依然として根強く残っており、このことが男女共同参画社会の実現への大きな課題の一つとなっています。

固定的な性別役割分担意識は男性により強く残っており、この解決に向けて、国においては、平成 22 年（2010 年）12 月に決定された「第 3 次男女共同参画基本計画」に、経済社会情勢の変化等に対応した重点分野のテーマの一つとして「男性にとっての男女共同参画」が新設されました。平成 24 年（2012 年）4 月には、内閣府において「男性にとっての男女共同参画に関する意識調査報告書」がまとめられ、そこで明らかになった男性の固定的な性別役割分担意識と日常生活の行動の志向との関連性を踏まえ、国においては、男性に対する男女共同参画意識の普及啓発の充実を図るとともに、精神面で孤立しやすい男性に対する相談体制の確立などの施策を推進することとされています。

滋賀県においても、平成 23 年（2011 年）3 月に策定された「滋賀県男女共同参画計画～新パートナーしがプラン～」の中で、男性に向けた効果的な施策を実施するとされており、滋賀県男女共同参画審議会では、男性自身が、自分の人生にプラスになるものとして男女共同参画の意義を理解するために、求められる施策展開の方向性を検討することとしました。

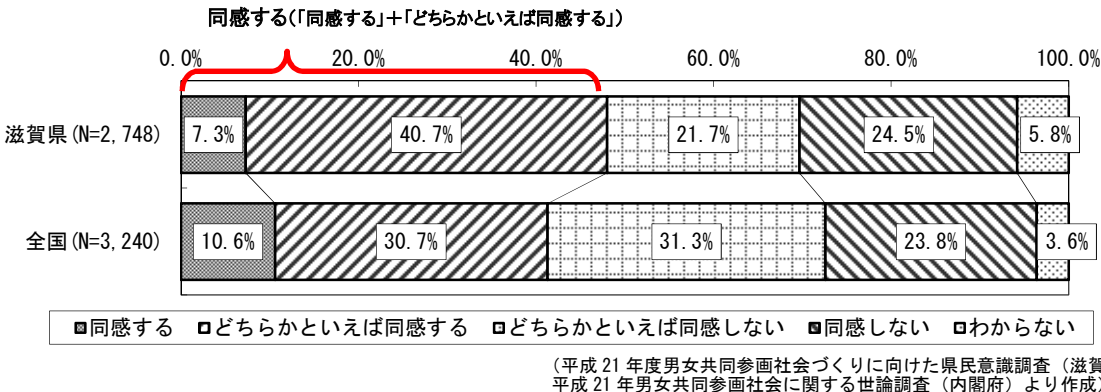
審議会では、平成 25 年（2013 年）1 月から 2 月にかけて男性へのヒアリング調査を実施し、それをもとに調査項目を設定した「男女共同参画に関する意識調査（平成 25 年度）」の結果の分析などの検討を重ね、このたび「男性にとっての男女共同参画に関する提言」としてとりまとめました。



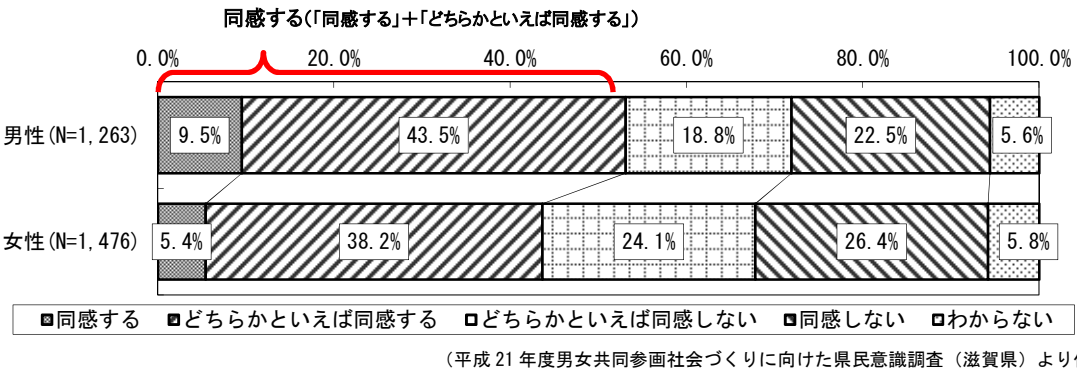
固定的な性別役割分担意識が男性に強く残っている状況

滋賀県では、平成 21 年度の県民意識調査によると、「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方に同感する人の割合は 48.0%（「同感する」7.3%、「どちらかといえば同感する」40.7%）でした。全国と比較すると、全国では同感する人の割合は 41.3%（「同感する」10.6%、「どちらかといえば同感する」30.7%）で、滋賀県の方が全国より高い状況となっています。また、性別でみると、男性の方が同感する割合が高い傾向がみられ、全国においても同様の傾向がみられます。【図表 1～4】

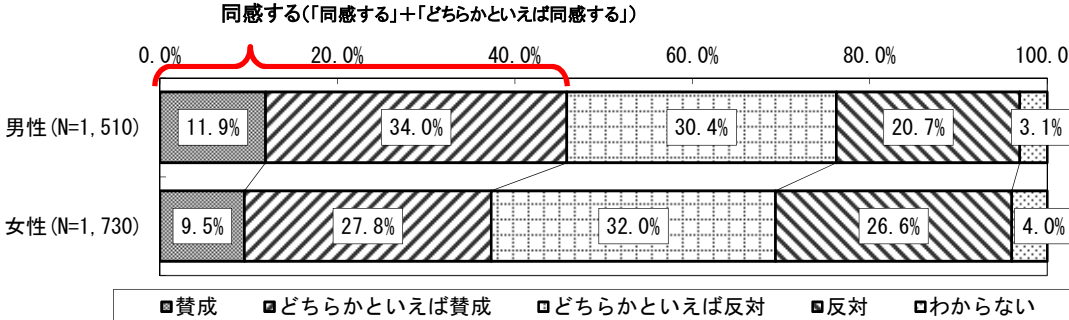
図表 1 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方について(滋賀県・全国)



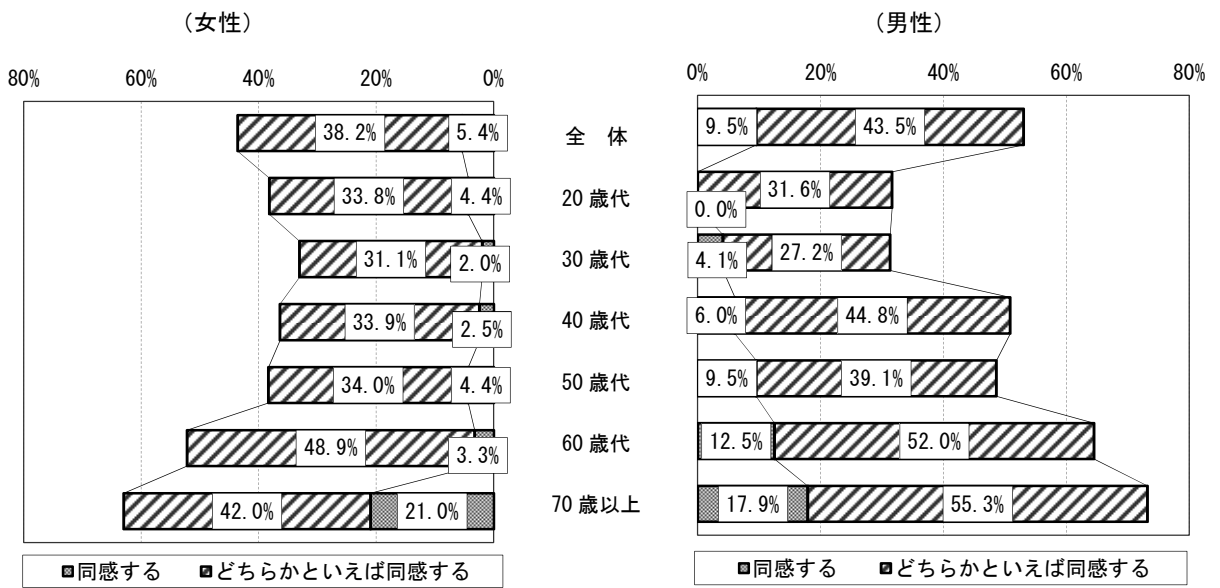
図表 2 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方について(男女別・滋賀県)



図表 3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について(男女別・全国)



図表4 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方について 男女別・年代別（滋賀県）
 〈同感する・どちらかといえば同感すると回答した割合〉



(「平成21年度男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査」(滋賀県)より作成)

2. 男性へのヒアリング調査の結果概要

男性の固定的な性別役割分担意識について検討するにあたり、まず実際の男性の声から課題を洗い出すため、審議会の委員が分担して県内5か所を訪問し、5回にわたって様々な立場の男性へのヒアリング調査を行いました。

(1) 対象者

- ・ 地域活動グループに参加している男性（30歳代～60歳代）
 - ・ 地域の安全・安心にかかわる仕事に就いている男性（20歳代～60歳代）
 - ・ 経営者・自営業者の男性（40歳代・50歳代）
 - ・ 大学生の男性（10歳代・20歳代）
 - ・ 企業の従業員の男性（20歳代・40歳代）
- 合計 33人

(2) 結果概要

子ども時代・親との関係について

- 長男が家を継ぐということは、普通のことだと思っていた。
- 子どものときから家業を継ぐように育てられた。
- 小さい時は、男が台所に入ったら怒られた。
- 「男は泣くな」と言われたが、それが当たり前だと思っていた。
- 両親が共働きだったので、家事に対する抵抗はない。

現在の家事・育児・介護等の状況について

- 妻には家にいてほしい。ご飯を作って待ってもらえるのが理想。
- 乳児は母親が育てた方がよい。男は勝てない。家事や育児はできるけれど、あえてやらない。妻が「やって」といった時だけやるようにしている。
- 結婚するまではやらなかったが、共働きの中で自然に家事分担のルールができた。家事はやっているが、笑顔でできていないと思う。
- 父親が家事をする姿を見てきているので、自分もやるものだと思っている。
- 以前は、「家事・育児は嫁の仕事」と思う時があったが、親の介護を経験して、大変な仕事であり、妻一人に任せておけないと思った。

仕事や働き方について

- 仕事優先が基本である。
- 長男である自分が家業を継ぐのは当たり前だと思っている。
- 男性社会（縦社会）では、人間関係が難しいと感じた部分があった。
- 仕事へのストレスや不安はある。
- 組織の厳しい中にいると女性を羨ましいと思う。男性は働くしか選択肢がないと思う。
- 女性は家事や育児が大変だが、仕事をしなくてもよいという面で、羨ましい部分もある。男性は100%仕事をしなければならない。都合の良いようにできる面で女性の方が得かもしれない。

男性の育児休業取得について

- 育休は、他の人に迷惑をかけるので取得しない。
- 「育休で休んでいる」と親に言えるか?と考えてしまう。
- 部下の男性が育休を取得したいと言ったら、制度がある以上、認めないわけにはいかない。

地域活動への参加や自己啓発について

- 人的ネットワークが構築され、仕事へのメリットがある。
- 社会活動は人間関係だけでなくビジネスチャンスも広げる。
- 仲間がいることで仕事以外の話や前向きな話もできるので、ストレス解消になる。
- 会社以外でも居場所ができた。認められる、期待されることはプラスにつながる。
- 仕事では身につかないことが習得できる。
- 最初は嫌だったが、やってみるとそう嫌なものではないことが分かった。

悩みや困りごとについて

- 悩みがあっても一人で解決する。誰にも相談しない。家庭には持ち込まない。
- 弱音を吐くことはない。我慢する。体調が悪くても身体が動く限りは仕事に行く。

女性の意識について

- 女性が「仕事は、何かあったら結婚して辞める」と気軽に口にしていた。
- 女性は責任感を持たない人が多い。だから女性が上司になる率が少ない。「共同参画」と言うのはいいが、言う限りは責任を持って一生懸命やってほしい。
- 自治会の役員は男性のみ。女性は選挙で当たっても受けない。
- 「女性が損をしている」という進め方はやめてほしい。「女性だから」といって、逃げる人もいる。女性が得をすることばかり、都合の良いところだけ「女性」と強調するのはどうか。

男女共同参画について

- 「男女共同参画」となると居心地は悪いが、避けられないことだと思う。
- 建前では「男女共同参画が進んだらいい」というが、本音は「本当にいいのかなあ」と思う時がある。
- 男女共同参画は、女性の地位向上への施策であり、男性の意識を変えるというイメージはない。男女共同参画は、女性の立場を良くしようという政策のイメージ。

男性へのヒアリング調査結果からうかがえる状況

- 男性は、男性に期待されている行動や固定的な性別役割を当然のこととして受け止める傾向がみられる。
- 男性は「男女共同参画は女性のためのものであり自分には関係がない」と認識している状況がうかがえる。
- 男女共同参画が進むことが男性にとっても良いものであるとはとらえていない状況がうかがえる。
- 男性の行動や意識が世代間で違う。

3. 男性の行動と意識の現状

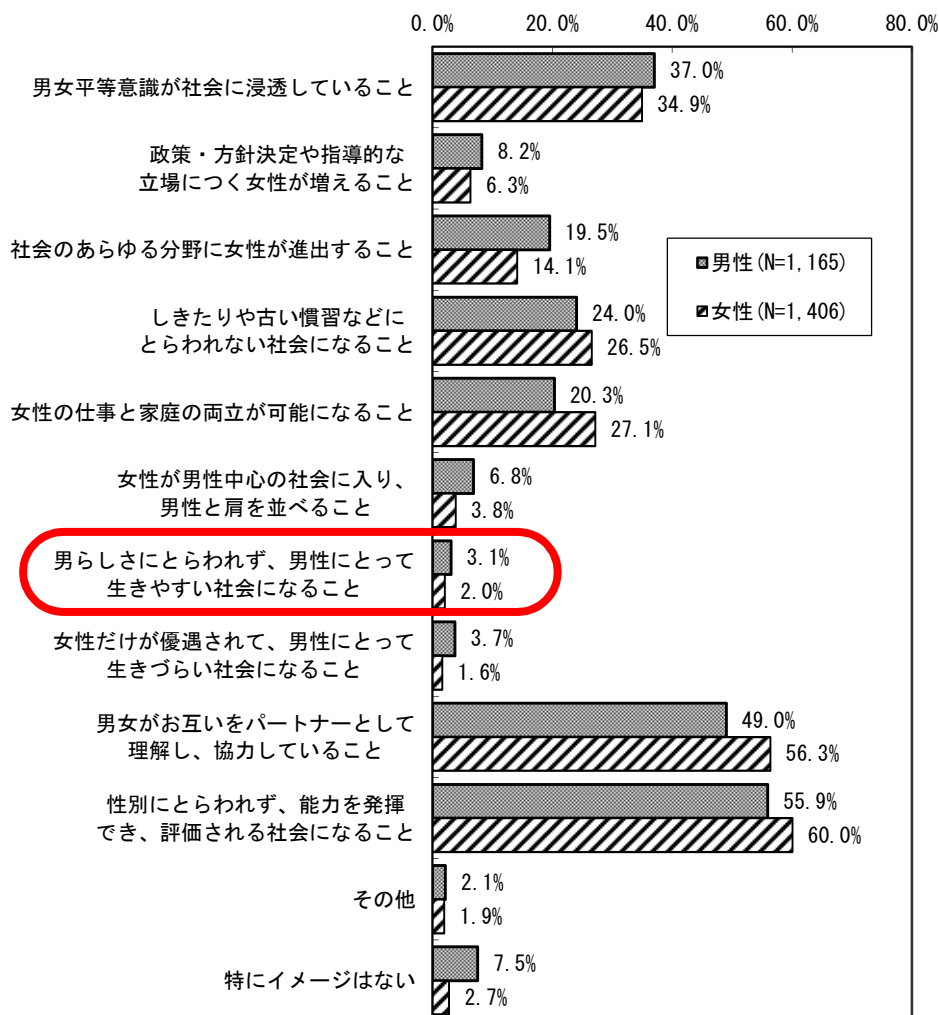
男性へのヒアリングの結果をもとに、固定的な性別役割分担意識と男性の日常生活の行動との関連について調査するため、県内全域を対象に「男女共同参画に関する意識調査（平成25年度）」（以下、「県意識調査」という。）が実施されました。その調査結果とともに、男性の日常生活の行動・意識に関連する既存調査の結果も踏まえ、滋賀県の男性の行動と意識の現状について整理しました。

「男女共同参画社会」のイメージ

県意識調査によると、「男女共同参画社会」のイメージについて、「性別にとらわれず、能力を発揮でき、評価される社会になること」が男女ともに最も多く、次いで、男女ともに「男女共同参画がお互いをパートナーとして理解し、協力していること」、「男女平等意識が社会に浸透していること」となっています。

一方、「男らしさにとらわれず、男性にとって生きやすい社会になること」と回答した割合は男女ともに低く、男性も女性も、男女共同参画社会は男性にとってプラスであるというイメージで捉えられていない状況がうかがえます。【図表5】

図表5 「男女共同参画社会」のイメージ／男女別・滋賀県（複数回答）



平成25年度県意識調査

(1) 男性の行動について

(考 察)

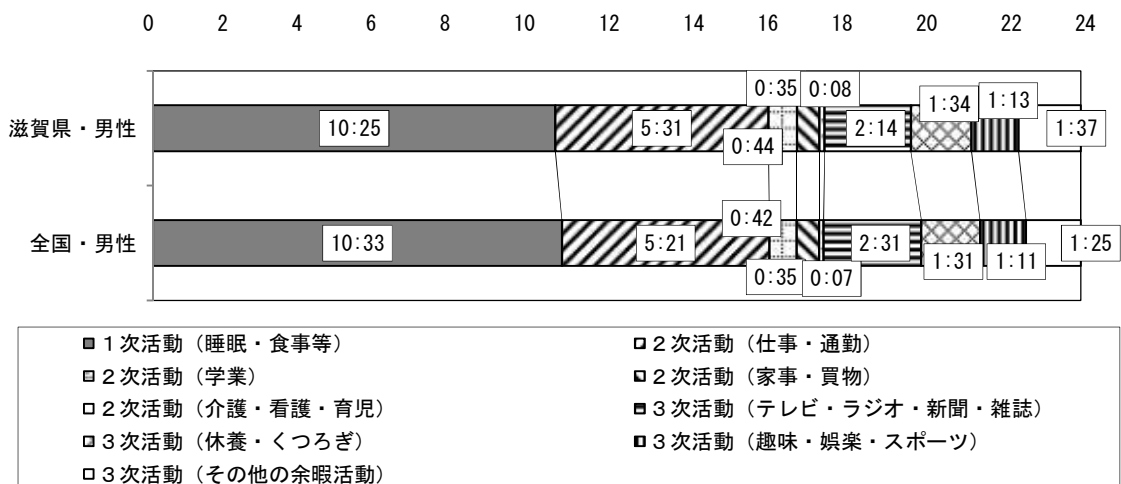
- 男性は1日の中で仕事に費やす時間が長くなっており、そのことが家事、育児、介護、地域活動といった仕事以外の活動に関していない状況をつくっていると考えられます。
- 多くの時間を仕事に費やす日常生活の中で、20歳代から50歳代までの現役世代を中心に、悩みや困りごと、男もつらいと思うことを抱えている割合が高く、その内容は仕事に関することが大きなウエイトを占めている状況がうかがえます。
- 悩みや困りごとがある際に男性が相談する相手としては、「配偶者」が最も多く、4割を超えています。が、「相談しなかった」が3割弱を占めており、配偶者以外の身近な人には相談しない傾向がみられます。
- 男性が悩みや困りごとを誰かに相談する場合、相談しやすい方法や体制として専門家による相談の希望が多い状況ですが、相談内容に応じて、希望する方法や体制に違いがみられます。

男性の生活時間について

まず、1日に占める男性の行動の種類別平均時間（週全体）をみると、全国と同様に、睡眠・食事の時間を除くと、「仕事・通勤」に占める時間が最も多くなっています。【図表6】

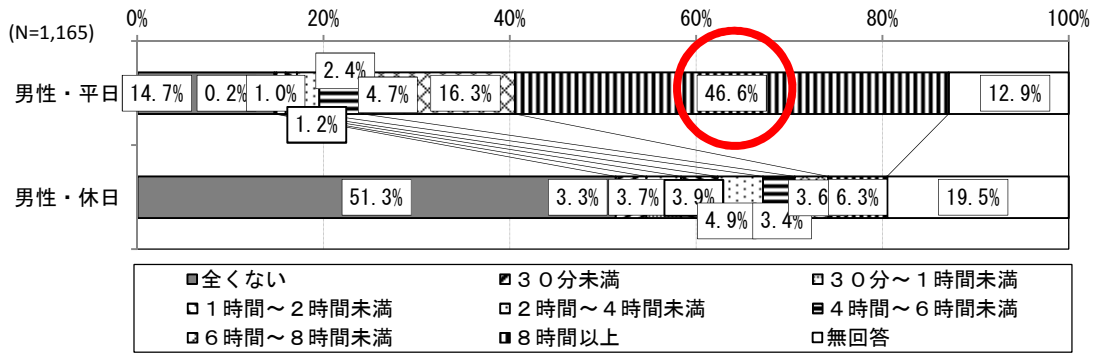
県意識調査によると、男性が1日の中で費やす「収入を得る仕事」の時間は、「8時間以上」と回答した割合が46.6%（平日）と最も多くなっています。【図表7】

図表6 1日に占める行動の種類別平均時間：週全体／男性・滋賀県・全国



(平成23年 社会生活基本調査(総務省)より作成)

図表7 1日に費やす時間「収入を得る仕事」／滋賀県

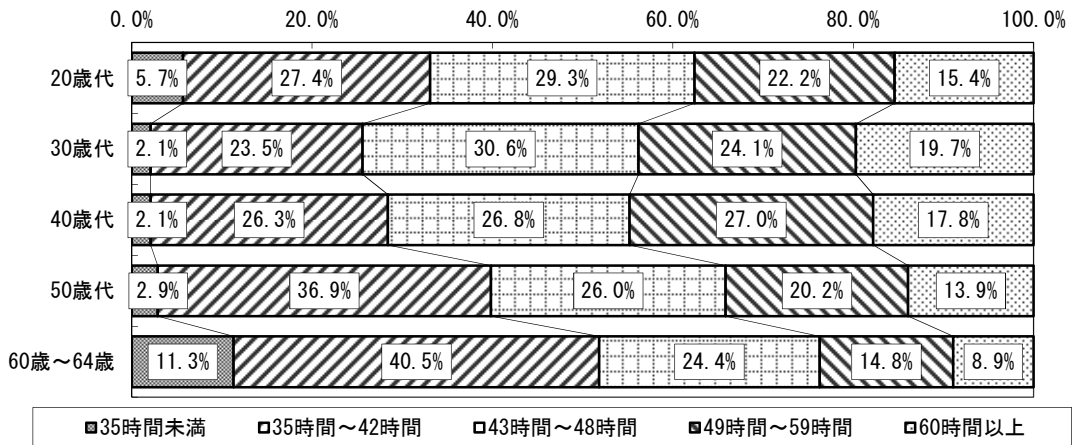


(平成25年度県意識調査)

男性の1週間の就業時間について年代別にみると、1週間に60時間以上働いている状況がいずれの年齢層においても一定の割合で見られます。【図表8】

図表8 年齢階級別1週間の就業時間／男性・滋賀県

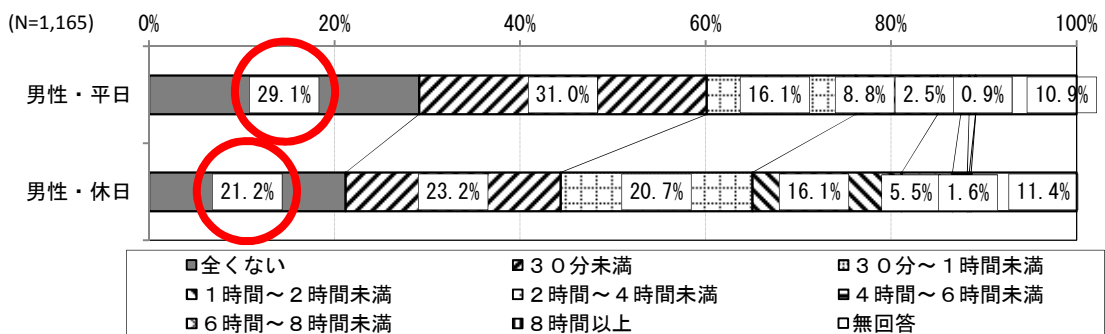
(年間就業日数200日以上 of 就業者)



(資料：平成24年就業構造基本調査(総務省))

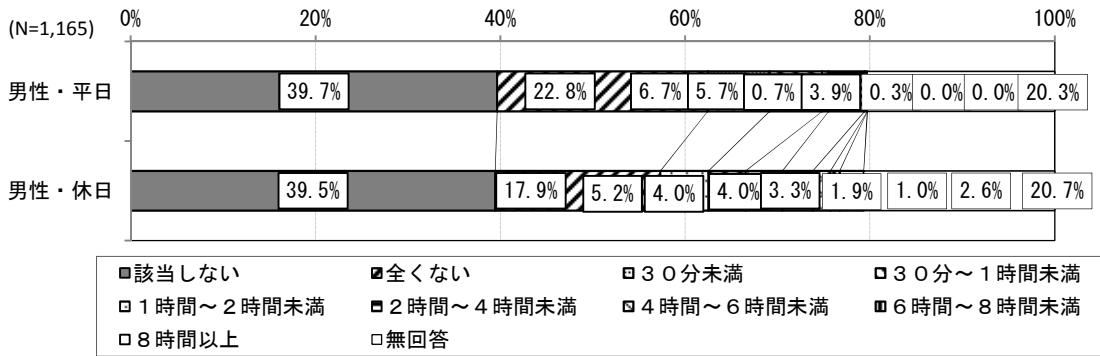
次に、男性が「収入を得る仕事」以外の活動に費やす時間をみてみると、県意識調査では、「家事」については、平日29.1%、休日21.2%の男性が「全くしていない」と回答しています。また、「育児・子育て」に費やす時間について、「該当しない」を除くと、「全くない」と回答した男性の割合は、平日で22.8%、休日で17.9%となっています。【図表9・10】

図表9 1日に費やす時間「家事」／滋賀県



(平成25年度県意識調査)

図表10 1日に費やす時間「育児・子育て」／滋賀県



(平成25年度県意識調査)

男性の家事、育児、介護等の時間は女性と比べて非常に短く、平成18年から平成23年にかけて、ほとんど増加していません。また、男性は仕事の時間が長く、家事、育児、介護等の時間は短い状況となっています。【図表11・12】

6歳未満の子どもを持つ男性の1日あたりの家事・育児関連時間については、平成23年は平成18年より4分長くなっていますが、全国と比較すると11分短い状況となっています。

【図表13】

また、県内の事業所における男性の育児休業取得の状況は、平成24年度で1.8%と低く、女性(95.2%)との差が大きい状況となっています。【図表14】

図表11 週全体の1日あたりの家事時間等に関する男女比較／滋賀県・経年変化

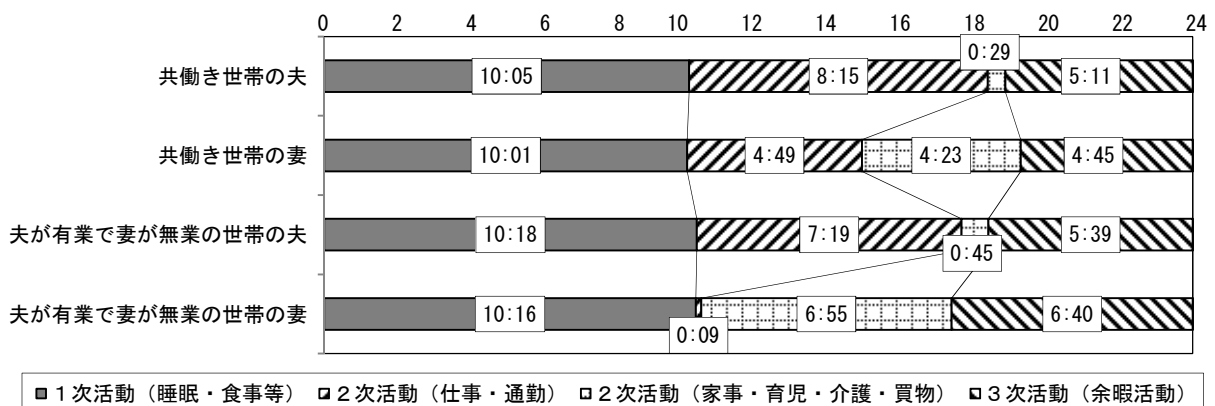
(単位 時間：分)

	男性				女性											
	家事	介護 看護	育児	計	家事	介護 看護	育児	計	女性(有業)				女性(無業)			
									家事	介護 看護	育児	計	家事	介護 看護	育児	計
S56	0:10	—	—	0:10	3:45	—	—	3:45	2:59	—	—	2:59	4:38	—	—	4:38
S61	0:10	—	0:02	0:13	3:14	—	0:29	3:44	2:47	—	0:12	2:59	3:40	—	0:47	4:28
H 3	0:12	0:00	0:01	0:14	2:56	0:06	0:22	3:26	2:42	0:06	0:12	3:00	3:18	0:07	0:37	4:02
H 8	0:12	0:02	0:03	0:17	2:59	0:06	0:20	3:25	2:39	0:05	0:12	2:56	3:26	0:07	0:30	4:03
H13	0:15	0:02	0:04	0:21	2:43	0:07	0:25	3:15	2:15	0:04	0:13	3:16	3:16	0:10	0:38	4:04
H18	0:15	0:01	0:05	0:21	2:44	0:06	0:26	3:16	2:28	0:05	0:21	2:54	3:25	0:09	0:35	4:09
H23	0:19	0:03	0:05	0:27	2:34	0:05	0:23	3:02	2:19	0:04	0:16	2:39	3:13	0:08	0:36	3:57

(出典：「平成24年度滋賀の男女共同参画」(平成25年12月) 資料：社会生活基本調査(総務省))

図表12 1日に占める時間数：週全体／滋賀県

(単位 時間：分)



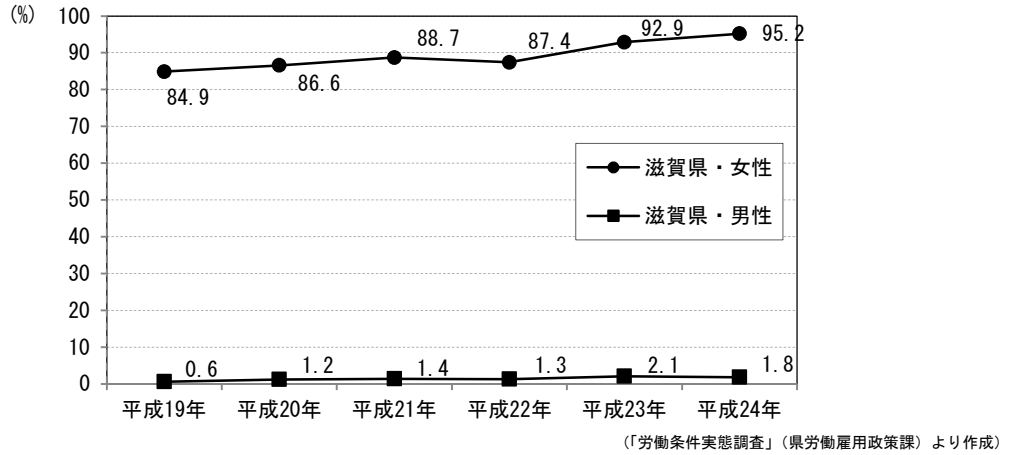
(平成23年 社会生活基本調査(総務省)より作成)

図表13 6歳未満の子どもを持つ男性の家事・育児関連時間（1日あたり）／滋賀県・全国

	平成18年	平成23年
滋賀県	52分	56分
全国	60分	67分

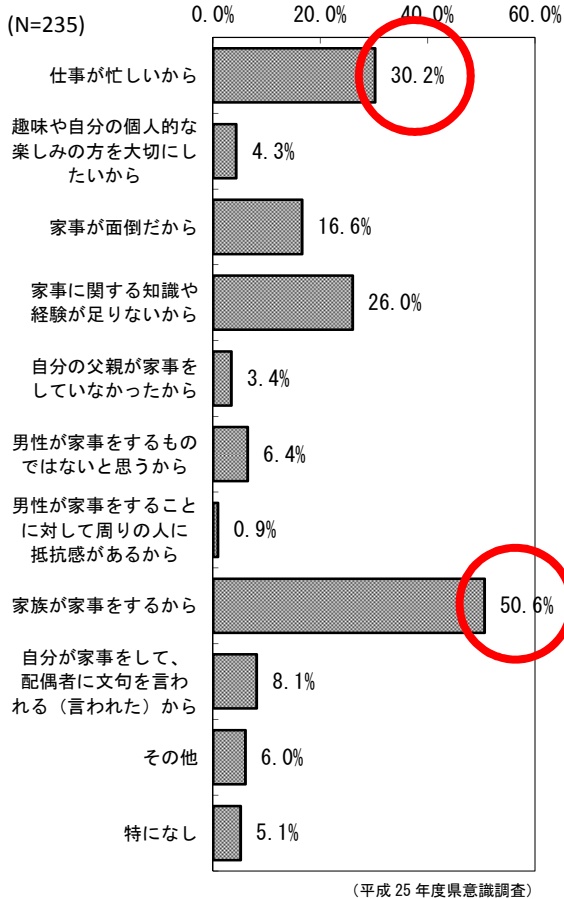
（「社会生活基本調査」（総務省）から算出）

図表14 育児休業取得率の推移／男女別・滋賀県

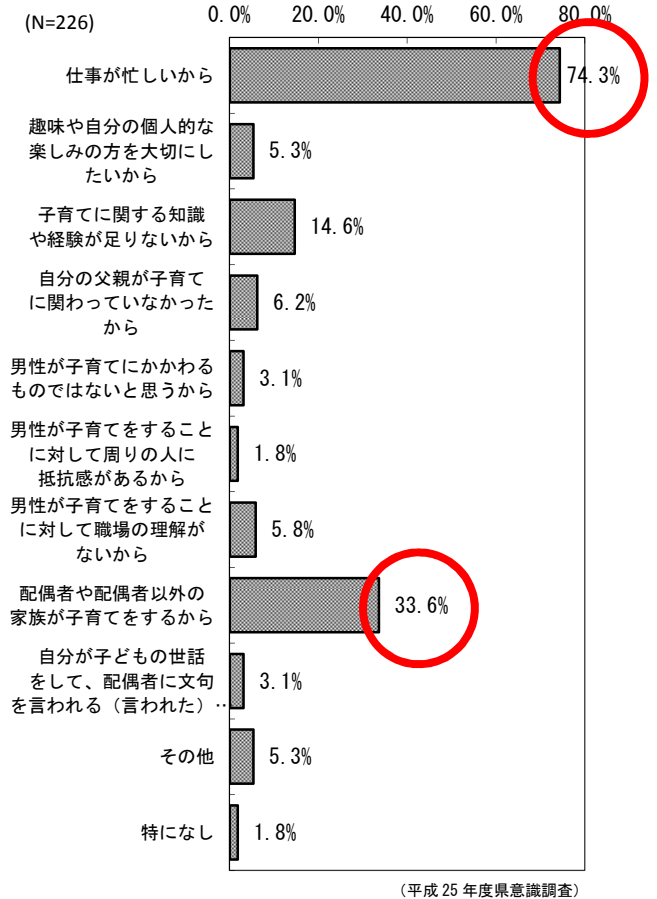


県意識調査によると、男性が家事や子育てをしない理由として、仕事が忙しいことや家族が家事や子育てをすることを挙げる割合が多くなっています。【図表15, 16】

図表15 家事をしない理由／男性・滋賀県
（複数回答）



図表16 子育てをしない理由／男性・滋賀県
（複数回答）

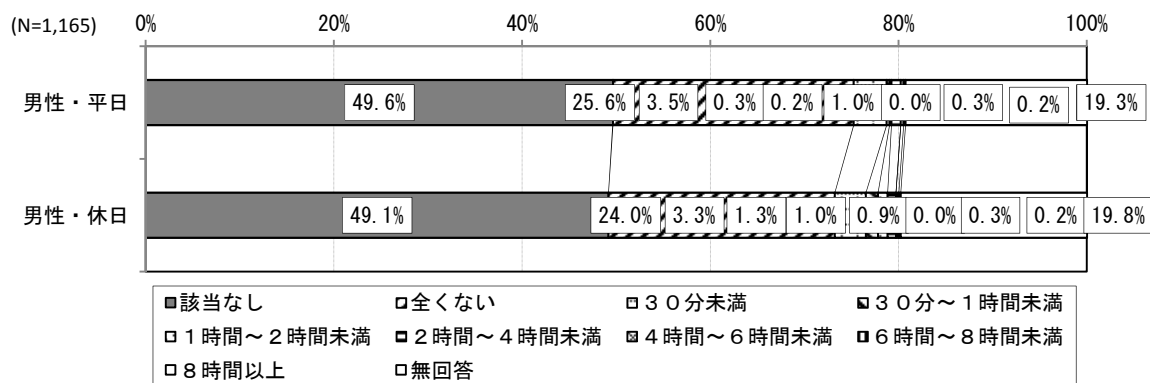


男性が「介護」に費やす時間をみてみると、県意識調査では、「該当しない」を除くと、「全くない」が平日 25.6%、休日 24.0%と最も多くなっています。【図表 17】

家族に介護を必要とする人がいる場合にどのように介護するかについては、「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら、主に自宅で介護したい（している）」（52.4%）が最も多く、「行政や外部のサービスには頼らず、自宅で介護したい（している）」（4.5%）と合わせると 56.9%が自宅で介護することを希望している状況となっています。【図表 18】

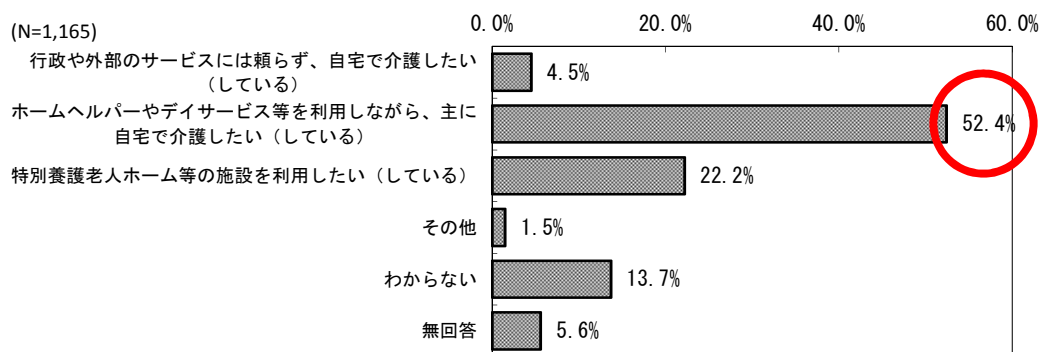
また、自宅で介護をする場合の介護者については、「主に、自分の配偶者が介護する（している）」（44.2%）が最も多く、次いで「主に、自分が介護する（している）」（34.1%）となっています。【図表 19】

図表 17 1日に費やす時間「介護」／男性・滋賀県



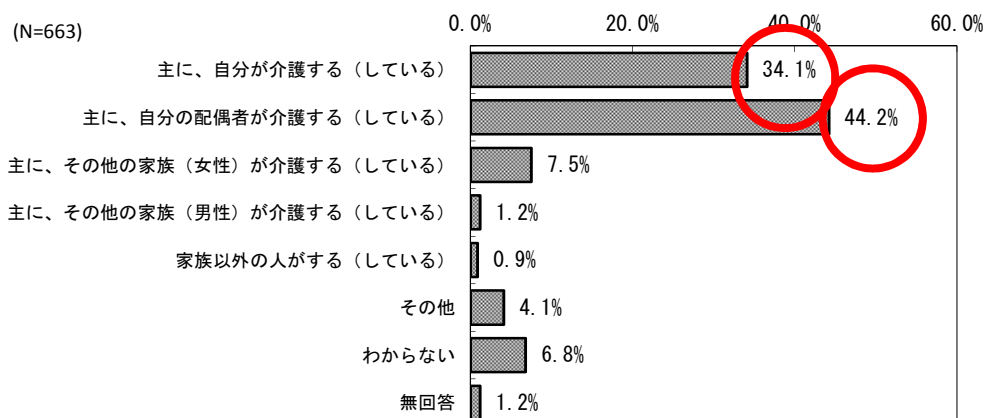
(平成 25 年度県意識調査)

図表 18 家族の介護が必要な場合にするか／男性・滋賀県



(平成 25 年度県意識調査)

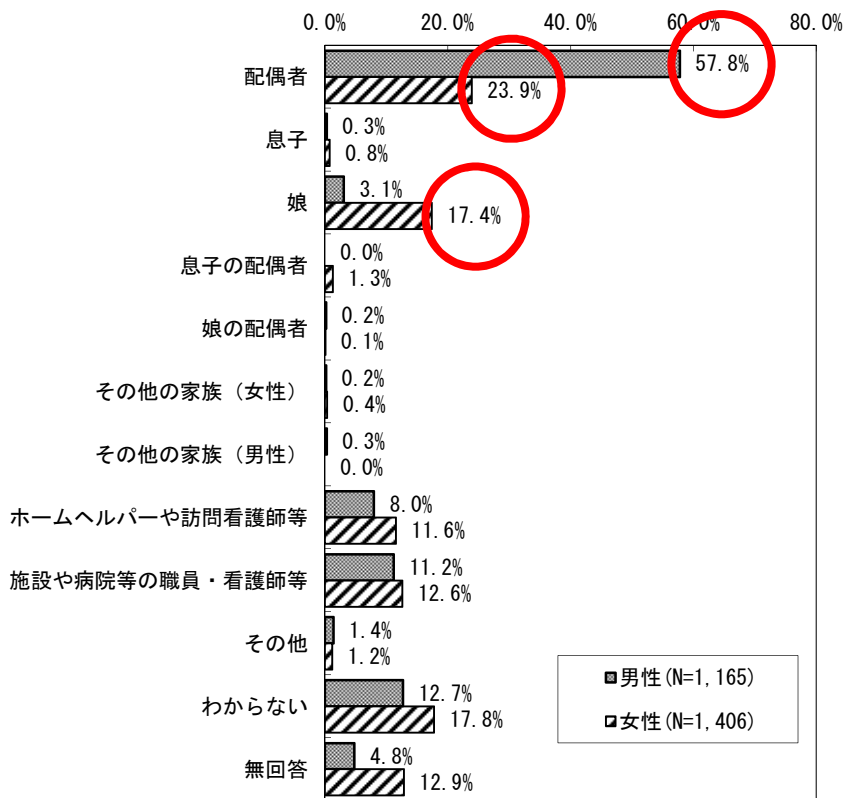
図表 19 自宅介護の場合の主な介護者／男性・滋賀県



(平成 25 年度県意識調査)

自分が介護をされるときは誰に介護されたいかについては、「配偶者」が男性 57.8%、女性 23.9%で男女ともに最も多くなっています。主な介護者として「配偶者」を希望する割合は男性の方が 33.9 ポイント多くなっています。一方、「娘」と回答した割合は、男性 3.1%、女性 17.4%で、女性の方が 14.3 ポイント多くなっています。【図表 20】

図表 20 誰に介護をされたいか／男女別・滋賀県

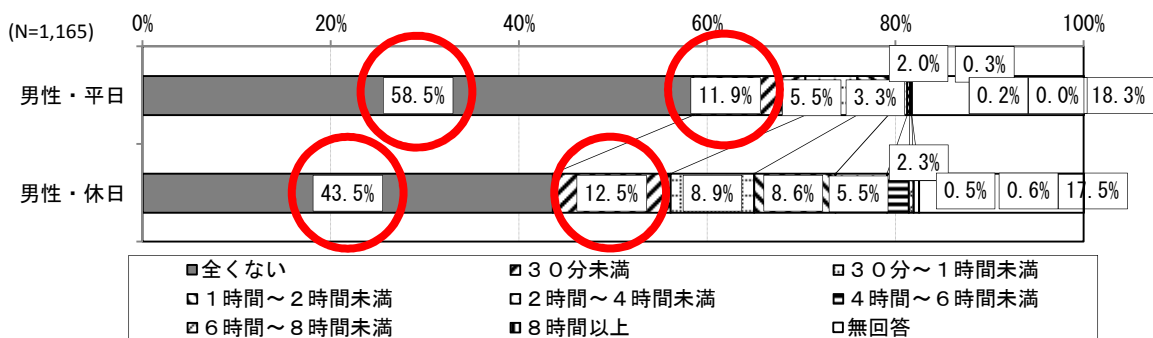


(平成 25 年度県意識調査)

男性が「地域活動」に費やす時間についてみると、県意識調査では、「全くない」が平日 58.5%、休日 43.5%で、ともに最も多く、次いで「30分未満」が平日 11.9%、休日 12.5%となっています。【図表 21】

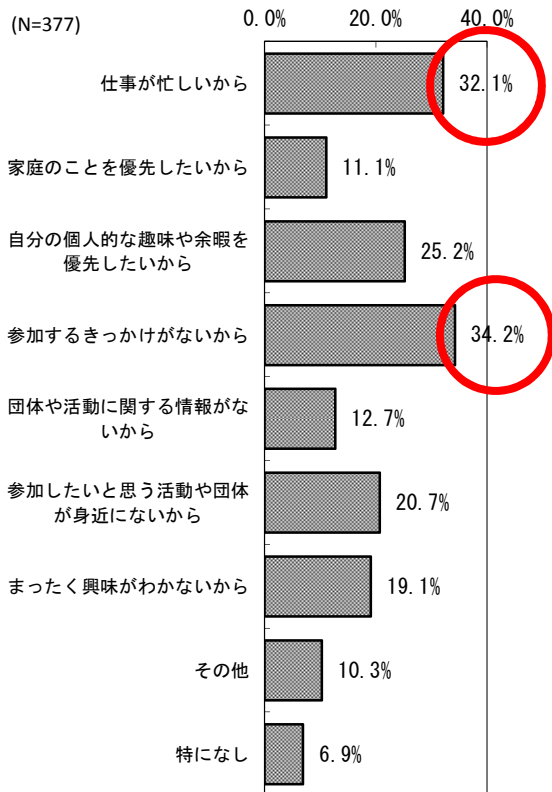
また、男性が地域活動に参加しない理由については、「参加するきっかけがないから」(34.2%)、「仕事が忙しいから」(32.1%)が多くなっています。滋賀県の居住歴別でみると、「県外で生まれて、滋賀県へ転入した」人は、「参加するきっかけがないから」(44.1%)が最も多くなっています。【図表 22, 23】

図表21 1日に費やす時間「地域活動」／男性・滋賀県

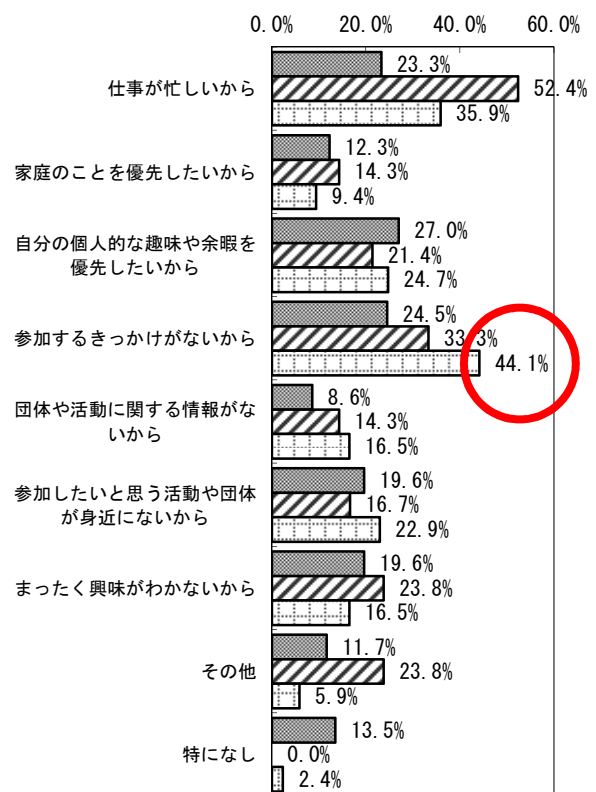


(平成 25 年度県意識調査)

図表 22 地域活動に参加しない理由／男性・滋賀県
(複数回答)



図表 23 地域活動に参加しない理由
／男性・居住歴別・滋賀県 (複数回答)



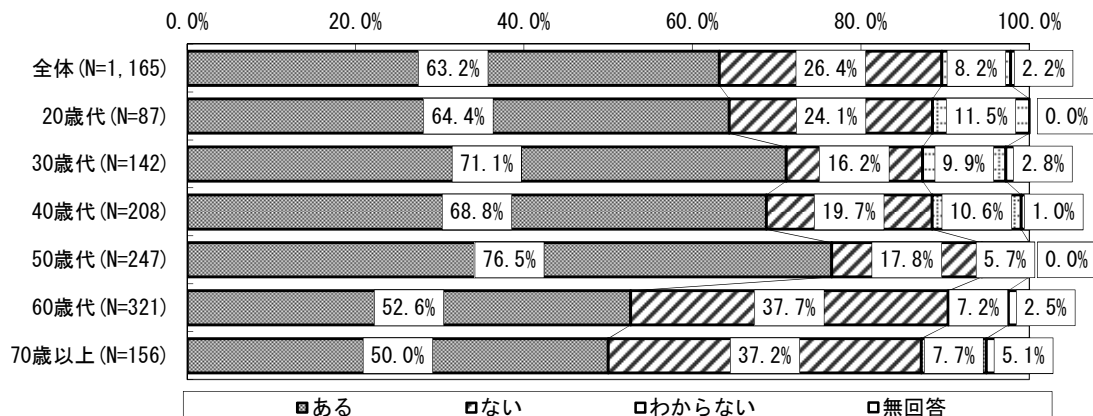
■生まれてからずっと滋賀県に住んでいる (N=163)
 ■滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び転入した (N=42)
 ■県外で生まれて、滋賀県へ転入した (N=170)

(平成 25 年度県意識調査)

男性の悩みや困りごとについて

次に、男性の現在の悩みや困りごとについてみると、県意識調査では、男性の現在の悩みや困りごとの有無について、「ある」(63.2%)が約6割を占め、「ない」(26.4%)を上回っています。年齢別にみると、「ある」という割合が20歳代から50歳代でいずれも6割を超え、50歳代の男性の76.5%が最も多くなっていますが、60歳代以降では5割程度になっています。【図表 24】

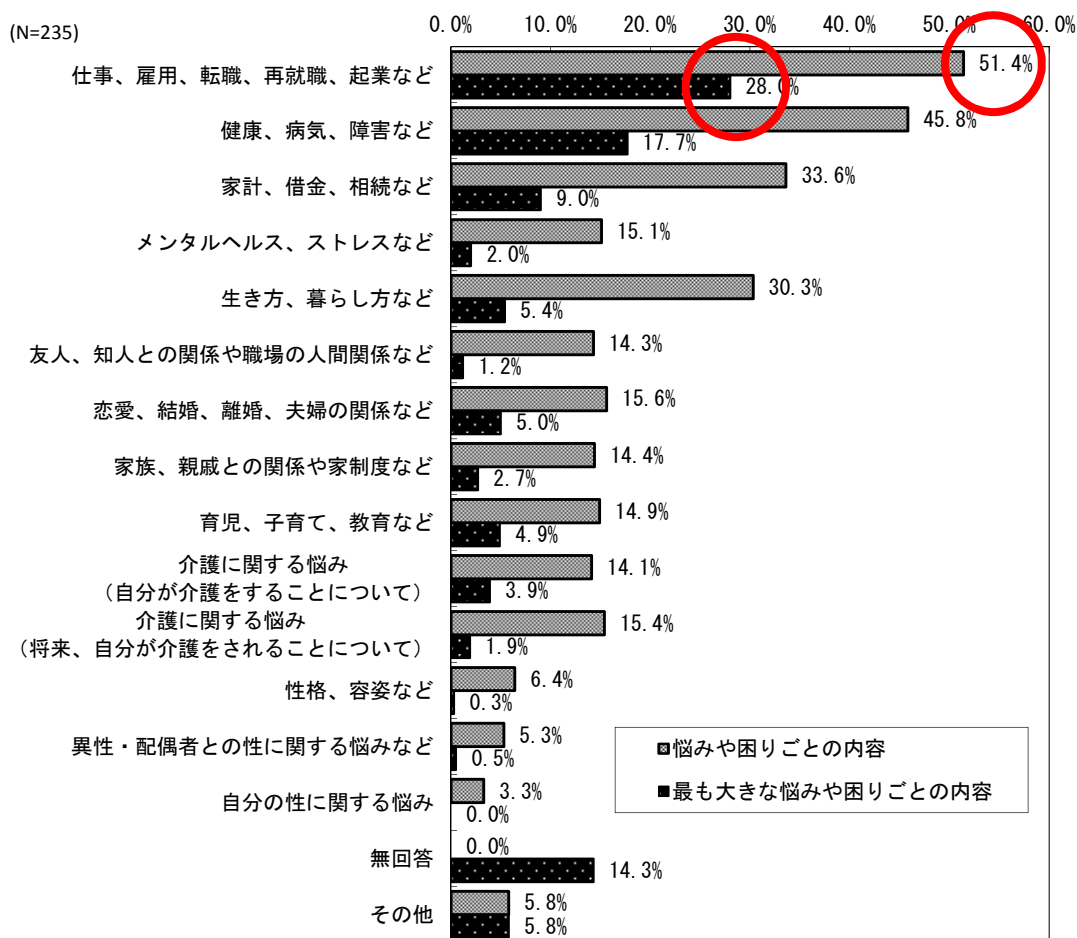
図表 24 悩みや困りごとの有無／男性・年齢別・滋賀県



(平成 25 年度県意識調査)

男性の悩みや困りごとの内容は、「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」(51.4%)が最も多く、最も大きな悩みや困りごとについても「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」(28.0%)が最も多くなっています。【図表 25】

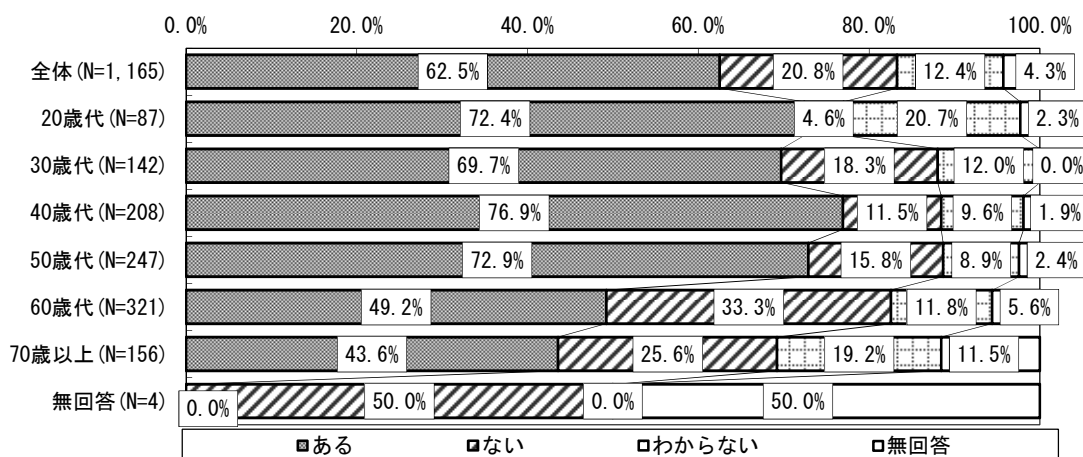
図表 25 男性の悩みや困りごと／滋賀県（複数回答）



(平成 25 年度県意識調査)

男性が「男もつらい」と感じることの有無については、「ある」(62.5%)が約6割を占め、「ない」(20.8%)を上回っています。年齢別にみると、20歳代から50歳代でいずれも6割を超えています。60歳代以降では5割以下になっています。【図表 26】

図表 26 「男もつらい」と感じるか／男性・年齢別・滋賀県

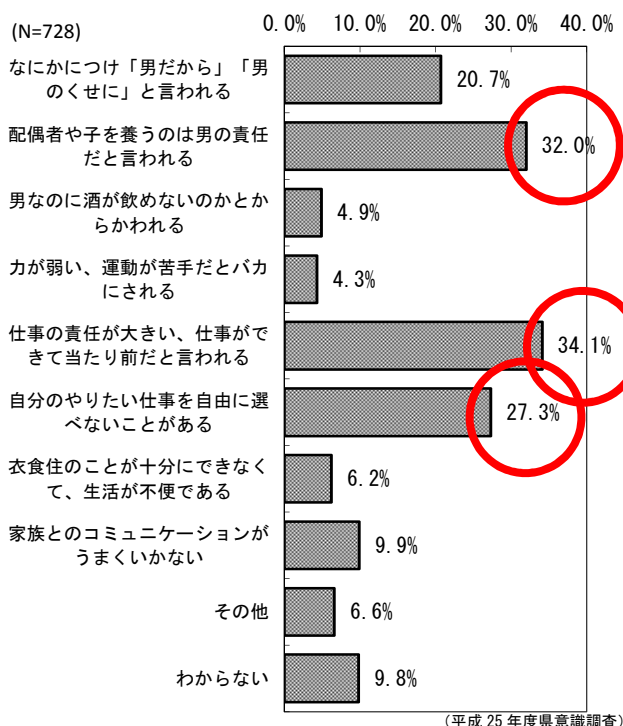


(平成 25 年度県意識調査)

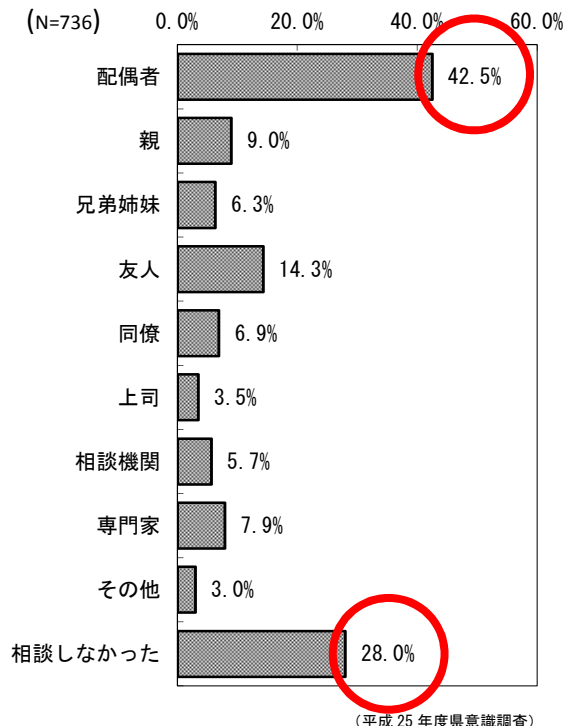
「男もつらい」と感じる内容は、「仕事の責任が大きい、仕事ができたり前だと言われる」(34.1%)が最も多く、次いで、「配偶者や子を養うのは男の責任だと言われる」(32.0%)、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」(27.3%)となっており、仕事に関する内容が多くを占めています。【図表 27】

また、悩みや困りごとがある際に男性が相談する相手については、「配偶者」(42.5%)が最も多く、次いで、「相談しなかった」(28.0%)となっています。【図表 28】

図表 27 「男もつらい」と感じる内容／滋賀県
(複数回答)

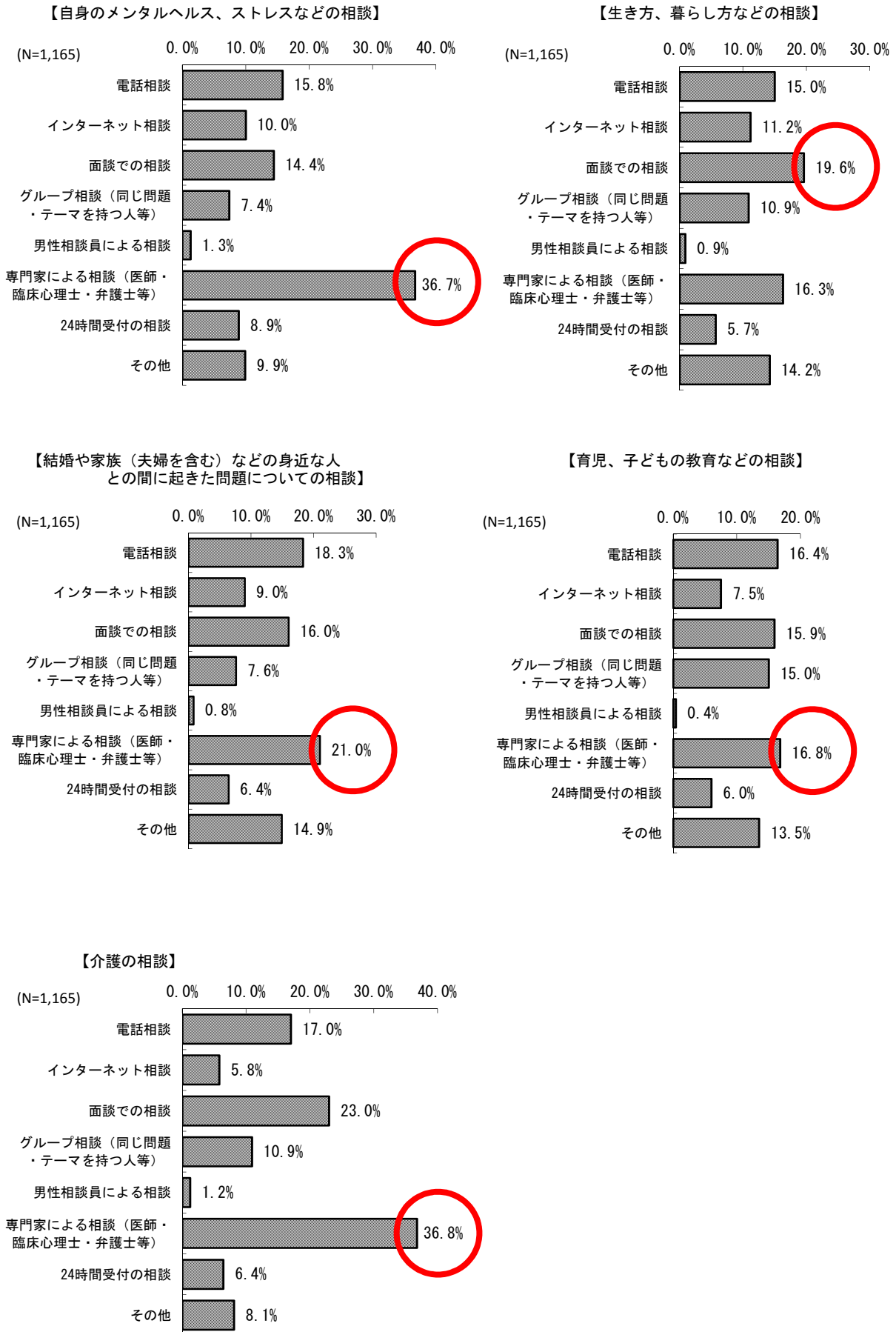


図表 28 悩みや困りごとの相談相手／男性・滋賀県
(複数回答)



男性が悩みや困りごとを誰かに相談する場合、相談しやすい方法や体制については、「生き方、暮らし方などの相談」では「面談での相談」(19.6%)が最も多くなっていますが、その他の相談では「専門家による相談」が最も多くなっています。また、相談の内容によって、希望する相談の方法や体制に違いがみられます。【図表 29】

図表 29 希望する相談方法や体制／男性・滋賀県



（平成 25 年度県意識調査）

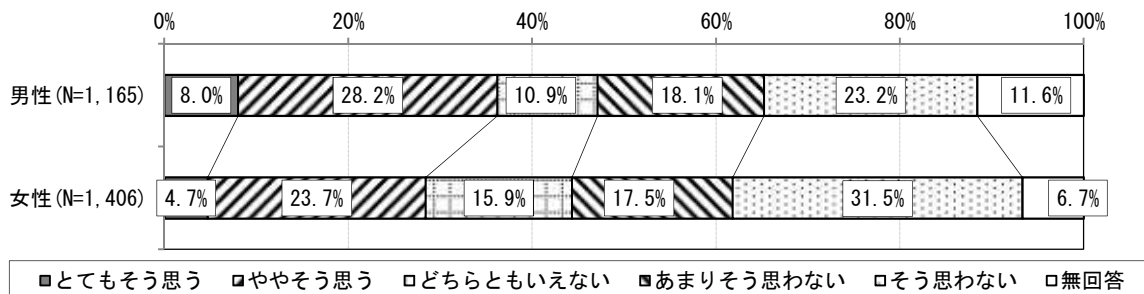
(2) 男性の意識について

(考 察)

- 男性の意識には、家族を経済的に支える役目は男性にあると考える傾向があり、仕事の責任を果たして社会的に評価されたいという志向があることがうかがえます。
- 男性は、経済的な役割、主導的な役割、私的な感情の抑制などについて、『男性はこうあるべき』という固定的な性別役割分担意識を肯定的に捉える傾向がみられます。
- こうした男性の役割分担やあるべき姿に対する考え方は、女性より男性の方に強く表れている場合があります。

次に、男性の意識についてみてみると、県意識調査では、「自分の子どもの成績や進路についての期待は、男子と女子では異なると思うかどうか」について、『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）は、男性 36.2%、女性 28.4%であり、男性の方が 7.8 ポイント多くなっています。また、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）割合は、男性 41.3%、女性 49.0%であり、女性の方が 7.7 ポイント多くなっています。【図表 30】

図表 30 自分の子どもの成績や進路についての期待は、男子と女子では異なると思うかどうか／男女別・滋賀県



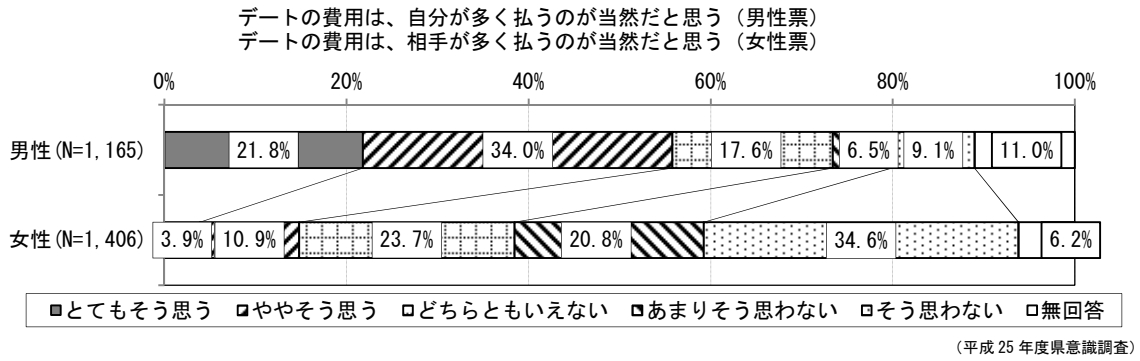
(平成 25 年度県意識調査)

デートの費用の負担に関して、「デートの費用は、自分が多く払うのが当然だ」と思うかどうかについて、男性が『そう思う』割合は 55.8%、『そう思わない』割合は 15.6%となっています。一方、「デートの費用は、相手が多く払うのが当然だ」と思うかどうかについて、女性が『そう思う』割合は 14.8%、『そう思わない』割合は 55.4%となっています。

デートの費用を男性が多く負担することについて、『そう思う』割合は、男性が女性よりも 3 倍以上多く、『そう思わない』割合は、女性が男性よりも 3 倍以上多くなっています。

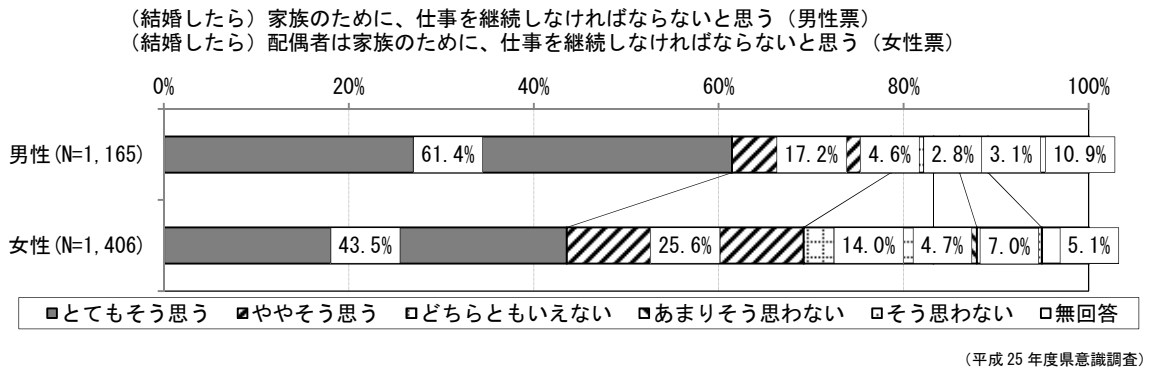
【図表 31】

図表 31 デートの費用は男性が多く払うのが当然だと思うかどうか／男女別・滋賀県



結婚後の男性の仕事の継続に関して、「(結婚したら) 男性は家族のために、仕事を継続しなければならない」と思うかどうかについて、男性が『そう思う』割合は 78.6%で約 8 割を占めています。また、「(結婚したら) 配偶者は家族のために、仕事を継続しなければならない」と思うかどうかについて、女性が『そう思う』割合は 69.1%で約 7 割を占めています。「とともそう思う」だけで見ると、男性 61.4%、女性 43.5%と、男性の方が 17.9 ポイント多くなっています。【図表 32】

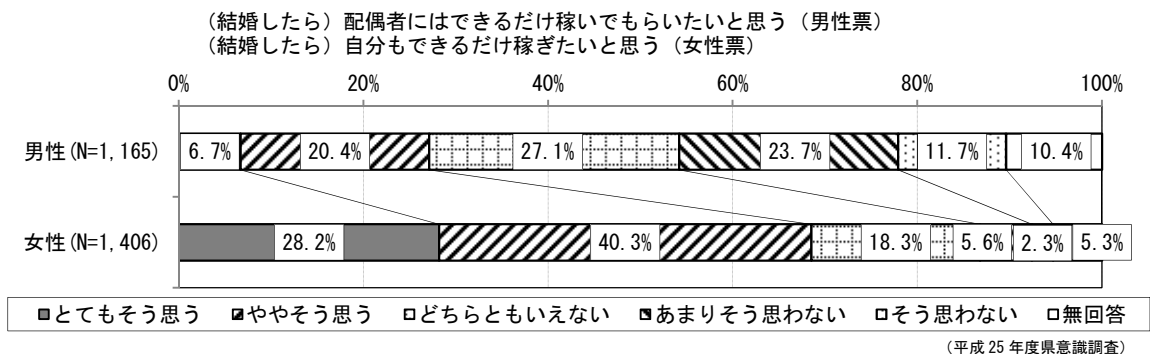
図表 32 結婚後、男性は仕事を継続しなければならないと思うかどうか／男女別・滋賀県



結婚後に女性が収入を得ることに関して、「(結婚したら) 配偶者には、できるだけ稼いでもらいたい」と思うかどうかについて、男性が『そう思う』割合は 27.1%で、『そう思わない』割合は 35.4%となっています。一方、「(結婚したら) 自分もできるだけ稼ぎたい」と思うかどうかについて、女性が『そう思う』割合は 68.5%、『そう思わない』割合は 7.9%となっています。

男性は結婚後に女性が収入を得ることへの期待が低く、女性は結婚後、自分も収入を得たいと思う割合が高くなっており、『そう思う』割合で比較すると、男女の意識に約 2.5 倍の差がみられます。【図表 33】

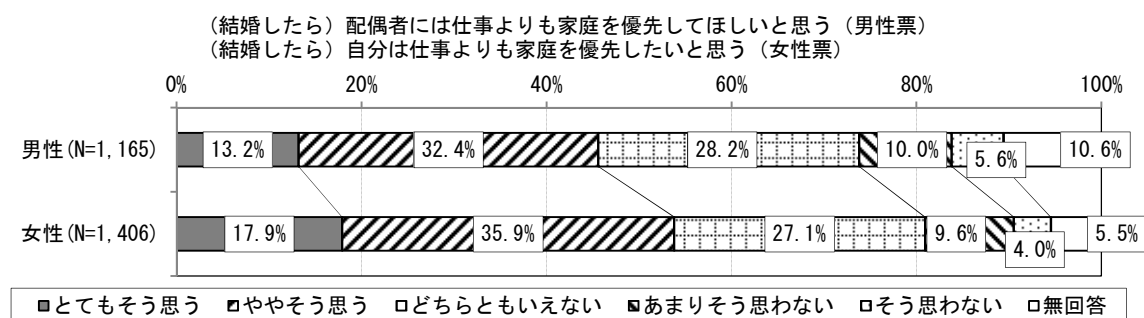
図表 33 結婚後、女性が収入を得ることについて／男女別・滋賀県



結婚後、女性が仕事よりも家庭を優先することに関して、「(結婚したら) 配偶者には仕事よりも家庭を優先してほしい」と思うかどうかについて、男性が『そう思う』割合は45.6%、『そう思わない』割合は15.6%となっています。また、「(結婚したら) 自分は仕事よりも家庭を優先したい」と思うかどうかについて、女性が『そう思う』割合は53.8%、『そう思わない』割合は13.6%となっています。

男女ともに約半数は、結婚後、女性が仕事よりも家庭を優先することを希望していることがうかがえます。【図表 34】

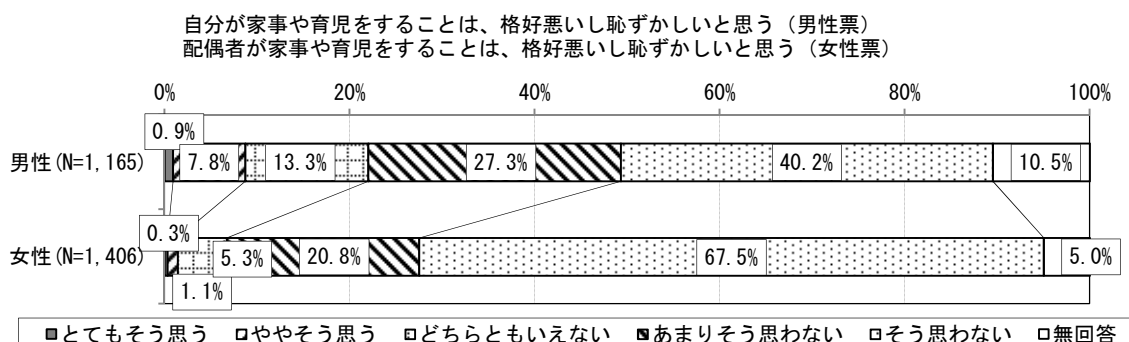
図表 34 結婚後、女性が仕事よりも家庭を優先することについて／男女別・滋賀県



(平成 25 年度県意識調査)

男性の家事・育児に関して、「自分が家事や育児をすることは、格好悪いし恥ずかしい」と思うかどうかについて、男性が『そう思う』割合は8.7%、『そう思わない』割合は67.5%となっています。また、「配偶者が家事や育児をすることは、格好悪いし恥ずかしい」と思うかどうかについて、女性が『そう思う』割合は1.4%、『そう思わない』割合は88.3%となっており、男女とも『そう思う』よりも『そう思わない』の方が圧倒的に多くなっています。【図表 35】

図表 35 男性が家事や育児をすることは、格好悪い、恥ずかしいと思うかどうか／男女別・滋賀県

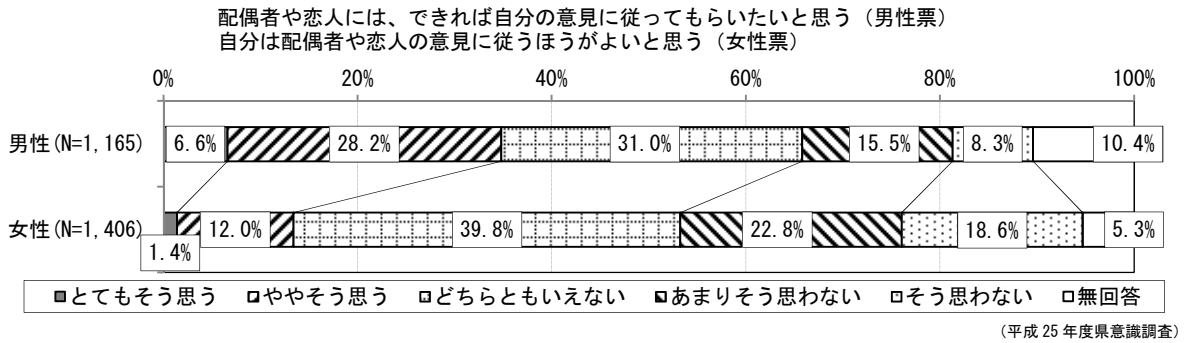


(平成 25 年度県意識調査)

「配偶者には自分の意見に従ってもらいたい」と思うかどうかについて、男性が『そう思う』割合は34.8%、『そう思わない』割合は23.8%となっています。一方、「自分は配偶者や恋人の意見に従うほうがよい」と思うかどうかについて、女性が『そう思う』割合は13.4%、『そう思わない』割合は41.4%となっています。

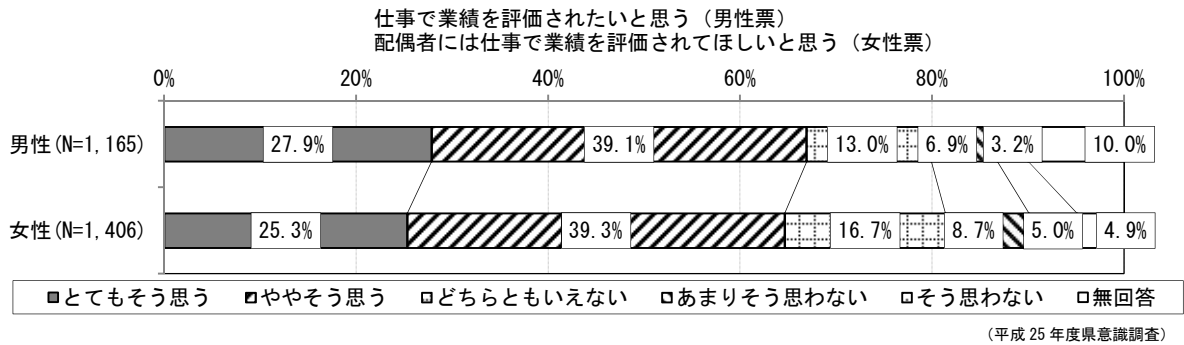
男性は自分の意見に従ってもらいたいと思う割合 (34.8%) は、女性が配偶者や恋人の意見に従うほうがよいと思う割合 (13.4%) の約2.5倍となっており、男女の意識に差がみられます。【図表 36】

図表 36 夫婦や恋人間で男性の意見に従うことについて／男女別・滋賀県



「仕事で業績を評価されたい」と思うかどうかについて、男性が『そう思う』割合は 67.0%、『そう思わない』割合は 10.1%となっています。また、「配偶者には、仕事で業績を評価されてほしい」と思うかどうかについて、女性が『そう思う』割合は 64.6%、『そう思わない』割合は 13.7%となっています。男女ともに、男性が仕事で業績を評価されることを望む割合が 6 割を超えています。【図表 37】

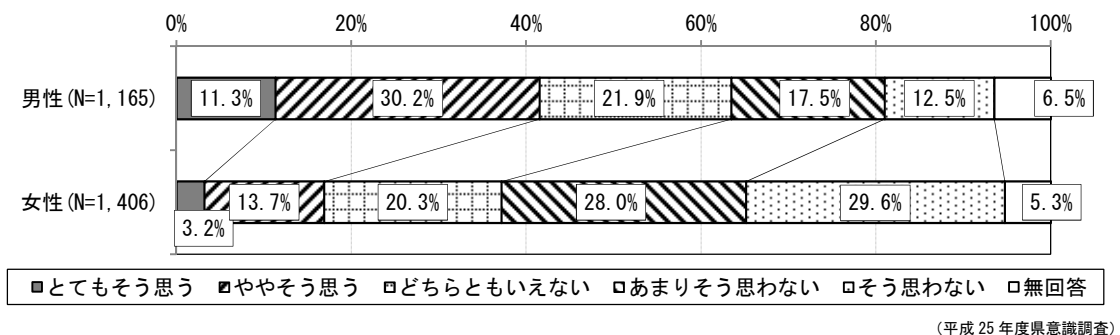
図表 37 男性が仕事で業績を評価されることについて／男女別・滋賀県



「男性は弱音を吐くべきではない」という考え方について、男性が『そう思う』割合は 41.5%、『そう思わない』割合は 30.0%で、「そう思う」の方が 11.5 ポイント多くなっています。一方、女性が『そう思う』割合は 16.9%、『そう思わない』割合は 57.6%で、「そう思わない」の方が 40.7 ポイント多くなっています。

男性は「男性は弱音を吐くべきではない」と考えている割合が 41.5%と高くなっていますが、女性は 16.9%と男性の半分以下となっており、男女の意識に差がみられます。【図表 38】

図表 38 「男性は弱音を吐くべきではない」という考え方について／男女別・滋賀県



4. 男性の固定的な性別役割分担意識に影響を及ぼすもの

次に、男性の固定的な性別役割分担意識に影響を及ぼすものについて検討しました。

(1) 子どもの生き方に対する親の期待

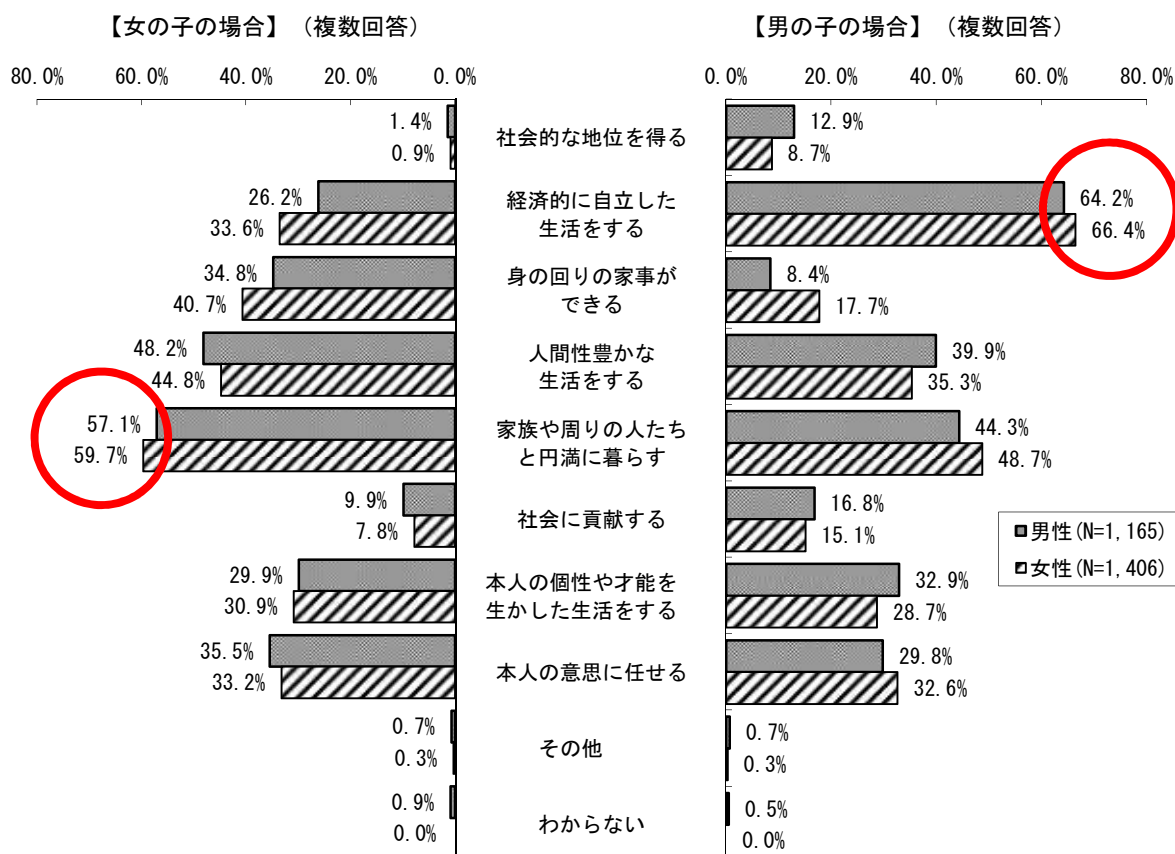
(考 察)

- 自分の子どもの生き方に対する期待については、経済的な役割が果たせることや社会的に評価される生き方を男の子に期待する割合が多く、家事ができることや家族等と円満に暮らすことについては、女の子に期待する割合が多くなっており、子どもの性別により、親が子どもに期待する内容が異なっています。

自分の子どもには将来どのような生き方をしてほしいと思うかについて、女の子の場合は、男女ともに「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が最も多く、男の子の場合は、男女ともに「経済的に自立した生活をする」が最も多くなっています。

女の子の場合と男の子の場合の差が大きい項目をみると、「経済的に自立した生活をする」、「社会的な地位を得る」、「社会に貢献する」は男女ともに男の子の場合の方が多くなっており、「身の回りの家事ができる」、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」は女の子の場合の方が多くなっています。【図表39】

図表 39 子どもの生き方に対する親の期待／男女別・滋賀県



(平成 25 年度県意識調査)

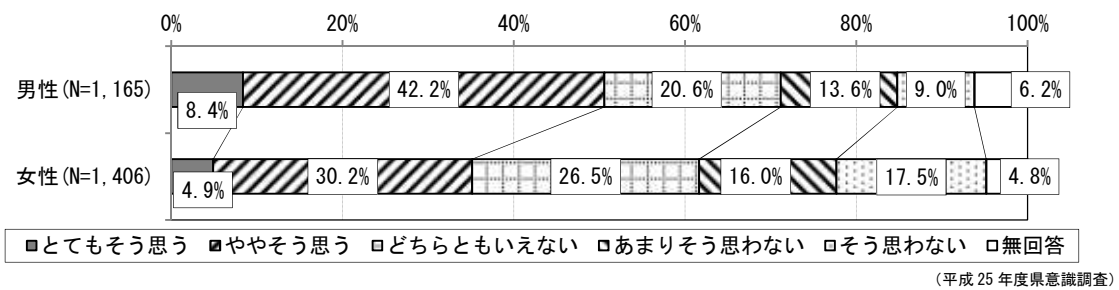
(2) 固定的な性別役割分担意識に関する女性の意識

(考 察)

- 女性は、経済的な役割や仕事で業績が評価されることを男性に期待する意識が高い一方、家事や子育ては女性がすべきと考える女性も一定の割合で見られます。そうした女性の意識が、男性の固定的な性別役割分担意識に影響を及ぼす場合があると考えられます。

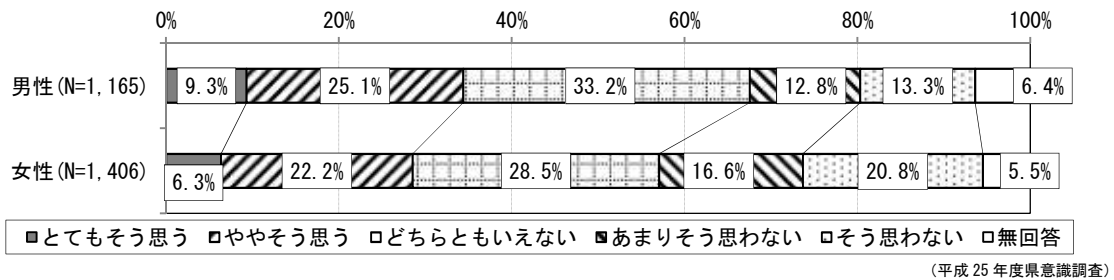
県意識調査によると、「家事や子どもの世話は、女性がするほうがよい」という考え方について、『そう思う』割合は、男性 50.6%、女性 35.1%となっており、男性の方が多いものの、女性も3割を超えています。【図表 40】

図表 40 「家事や子どもの世話は、女性がするほうがよい」という考え方について／男女別・滋賀県



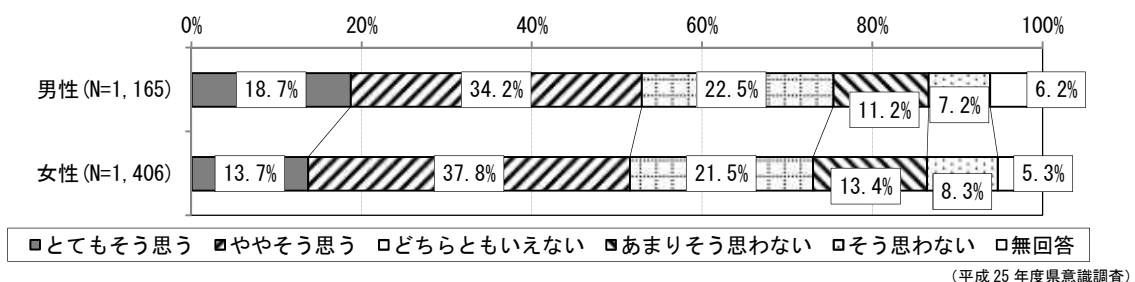
「責任ある仕事は、女性よりも男性がするほうがよい」という考え方について、『そう思う』割合は、男性 34.4%、女性 28.5%となっています。【図表 41】

図表 41 「責任ある仕事は、女性よりも男性がするほうがよい」という考え方について／男女別・滋賀県



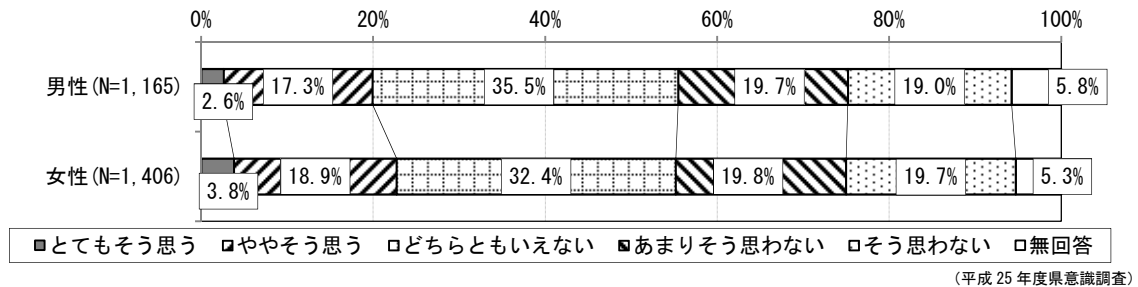
「男性は仕事における成功が重要である」という考え方について、『そう思う』割合は、男性 52.9%、女性 51.5%となっており、男女ともに5割を超えています。【図表 42】

図表 42 「男性は仕事における成功が重要である」という考え方について／男女別・滋賀県



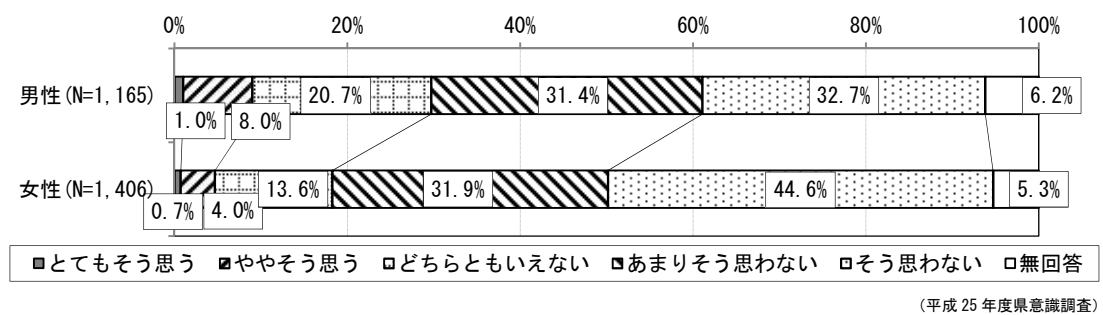
「地域の集まりで、男性が会のまとめ役をし、女性がお茶出しや後片付けなどをするこ
 とになっているのは、特におかしいことではない」という考え方について、『そう思う』割
 合は、男性の19.9%に対し、女性は22.7%と、男性より高くなっています。【図表 43】

図表 43 「地域の集まりで、男性が会のまとめ役をし、女性がお茶出しや後片付けなどをするこ
 になっているのは、特におかしいことではない」という考え方について／男女別・滋賀県



「女性が管理職になることに抵抗がある」という考え方について、『そう思う』割合は、
 男性 9.0%、女性 4.7%となっています。【図表 44】

図表 44 「女性が管理職になることに抵抗がある」という考え方について／男女別・滋賀県



「家事や子どもの世話は、女性がするほうがよい」「責任ある仕事は、女性よりも男性が
 するほうがよい」「男性は仕事における成功が重要である」という考え方については、女性
 が『そう思う』割合が3割から5割を占めています。

中でも「男性は仕事における成功が重要である」は5割を超えており、「(結婚したら)
 配偶者は家族のために、仕事を継続しなければならない」(図表 32)、「配偶者には、仕事
 で業績を評価されてほしい」(図表 37)は6割を超えています。

また、女性が「(結婚したら)自分は仕事よりも家庭を優先したい」と思うかどうかにつ
 いて(図表 34)、『そう思う』割合は5割を超え、男性が「配偶者には仕事よりも家庭を優
 先してほしい」と思う割合よりも高くなっています。

5. 変わり始めている男性の意識

次に、男性の意識が変化してきている状況とその背景について検討しました。

(1) 若い世代は固定的な性別役割分担意識にとらわれない傾向がある

(考 察)

- 若い世代は固定的な性別役割分担意識にとらわれない傾向がみられ、家庭における男性の参画について、実践への意識もうかがえます。
- 特に、20歳代は学校で学習した経験が、他の年齢層に比べて突出して多いことから、若い世代の男女共同参画意識を育むために、学校における学習が重要であると考えられます。一方、どの世代も、男女ともにマスコミからの情報を得ている状況がうかがえます。

県意識調査によると、男性が家事や育児をすることを格好悪いこと、恥ずかしいことと思うかどうかに関しては、男女ともに若い年齢層ほど「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合が多くなっています。【図表 45】

図表 45 男性が家事や育児をすることは、格好悪いこと、恥ずかしいことと思うかどうか／男女別・滋賀県

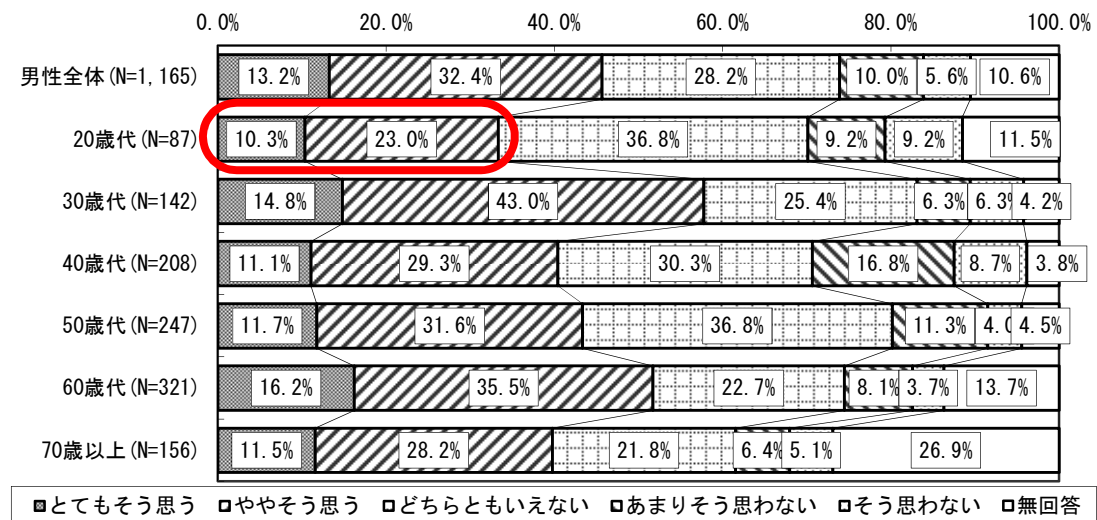


(平成 25 年度県意識調査)

「(結婚したら) 配偶者には仕事よりも家庭を優先してほしい」と思う男性は、20 歳代で 33.3%であり、他の年齢層と比較して最も少なくなっています。【図表 46】

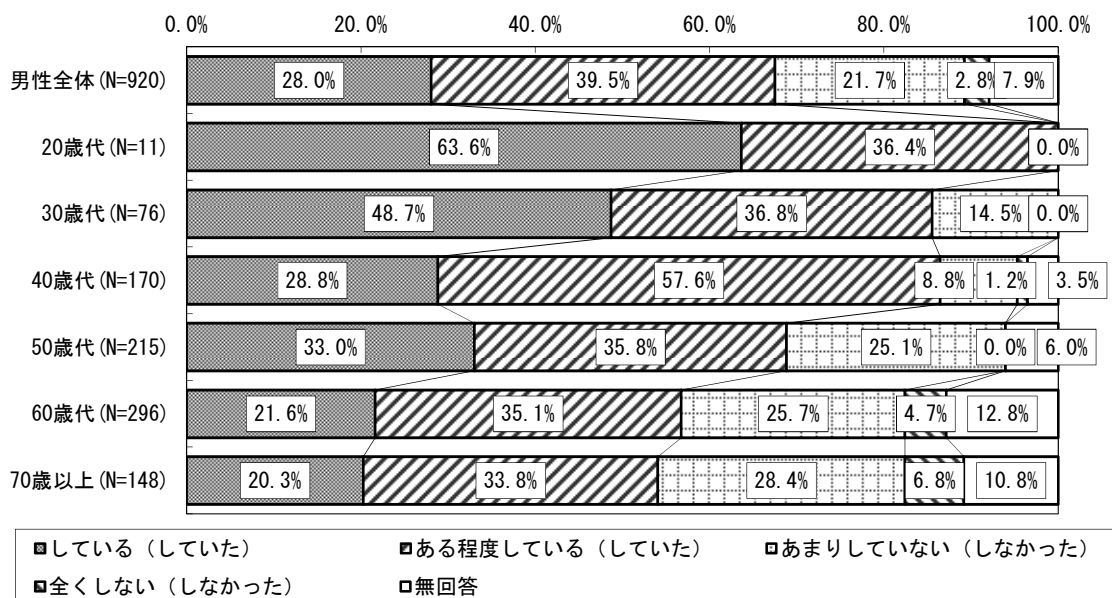
また、男性の子育ての状況を年齢別にみると、「している (していた)」「ある程度している (していた)」を合わせた割合は、若い年齢層ほど多くなっています。【図表 47】

図表 46 (結婚したら) 配偶者には仕事よりも家庭を優先してほしいと思うかどうか
／男性・年齢別・滋賀県



(平成 25 年度県意識調査)

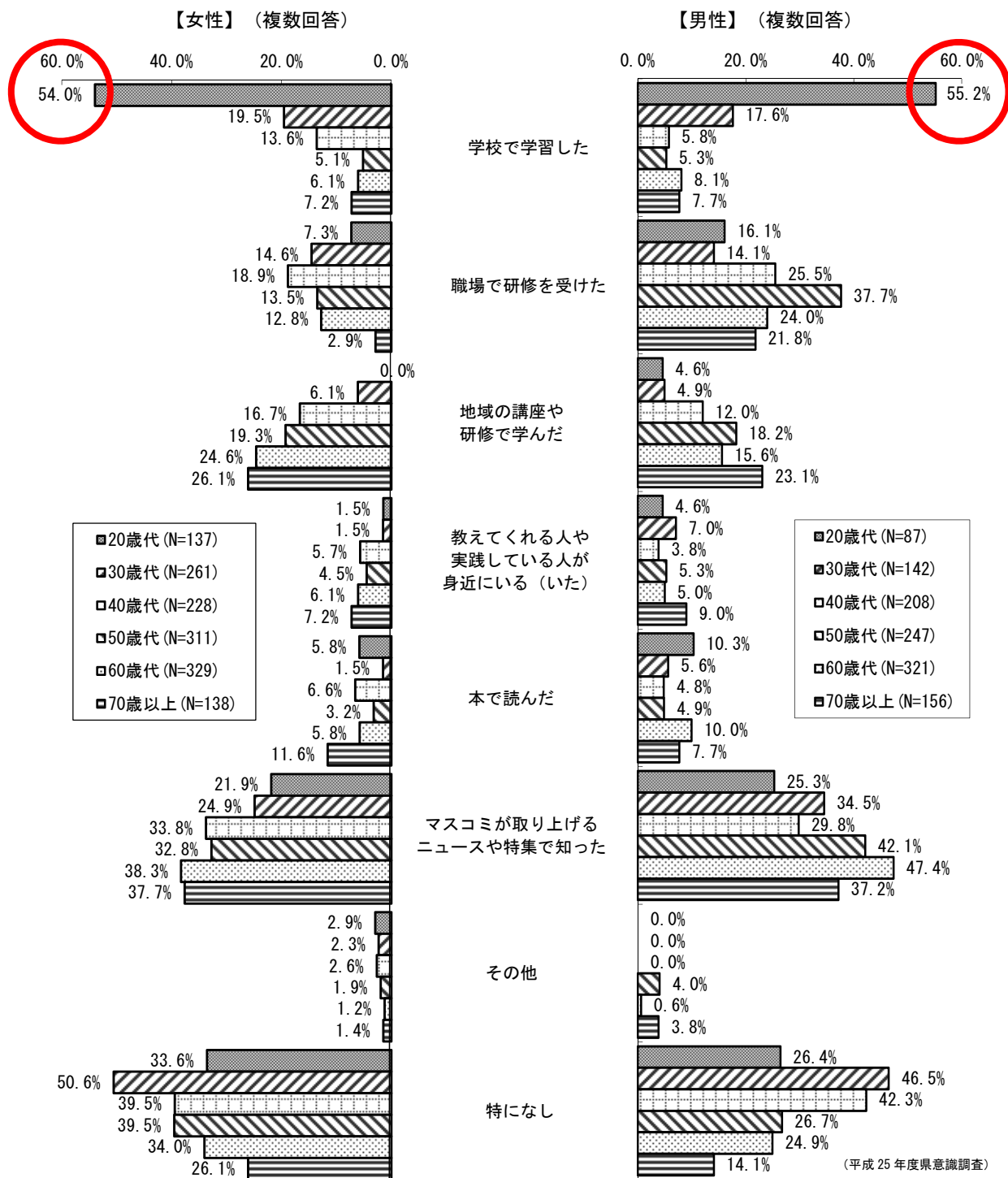
図表 47 子育ての状況 (経験) ／男性・滋賀県



(平成 25 年度県意識調査)

男女共同参画に関する学習経験をみてみると、男女共同参画に関して「学校で学習した」割合は、20歳代では男性55.2%、女性54.0%となっており、他の年齢層と比較して突出して多い状況となっています。【図表48】

図表48 男女共同参画に関する学習経験／男女別・滋賀県



(2) 様々な経験が男性の意識に変化や充実感をもたらす

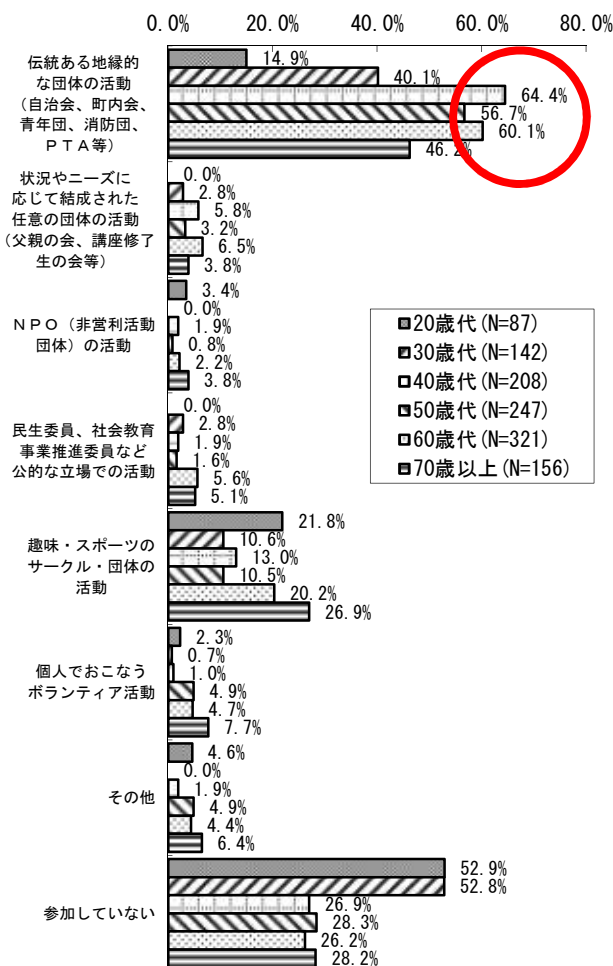
(考察)

- 参加するきっかけは「特になし」が最も多くなっていますが、地域活動に参加している男性は、地域の様々な人とのつながりや地域社会への貢献など、良い変化や効果があったと受け止めている傾向があることがうかがえます。
- 中学生以下の子どもがいる男性は、子育てを通じて「子育ては自分にとってプラスだ」「毎日が充実している」「子育てが楽しい」と感じている様子が見られます。
- こうしたことから、仕事以外の場面で、男性自身が「成長できた」「充実している」と実感できる機会や経験が、男性の意識に変化や充実感をもたらすきっかけになると考えられます。

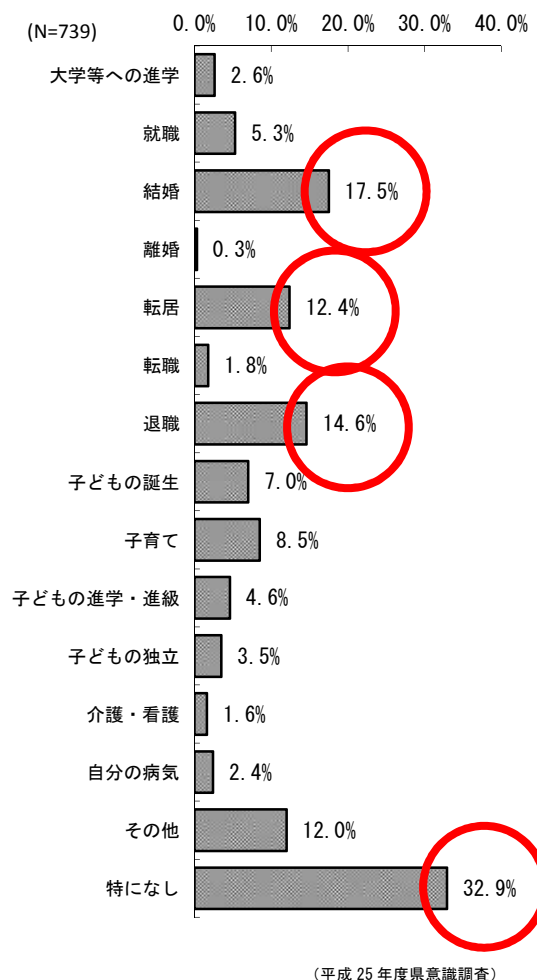
男性が参加している地域活動は、「伝統ある地縁的な団体の活動」が最も多く、その活動には40歳代から60歳代の参加が多くなっています。【図表49】

地域活動に参加するきっかけとして、特に影響を受けたライフイベント（人生の節目となるようなできごと）については、「結婚」（17.5%）、「退職」（14.6%）、「転居」（12.4%）などが多くなっていますが、「特になし」が32.9%と約3割を占めています。【図表50】

図表49 参加している地域活動
／男性・年齢別・滋賀県（複数回答）

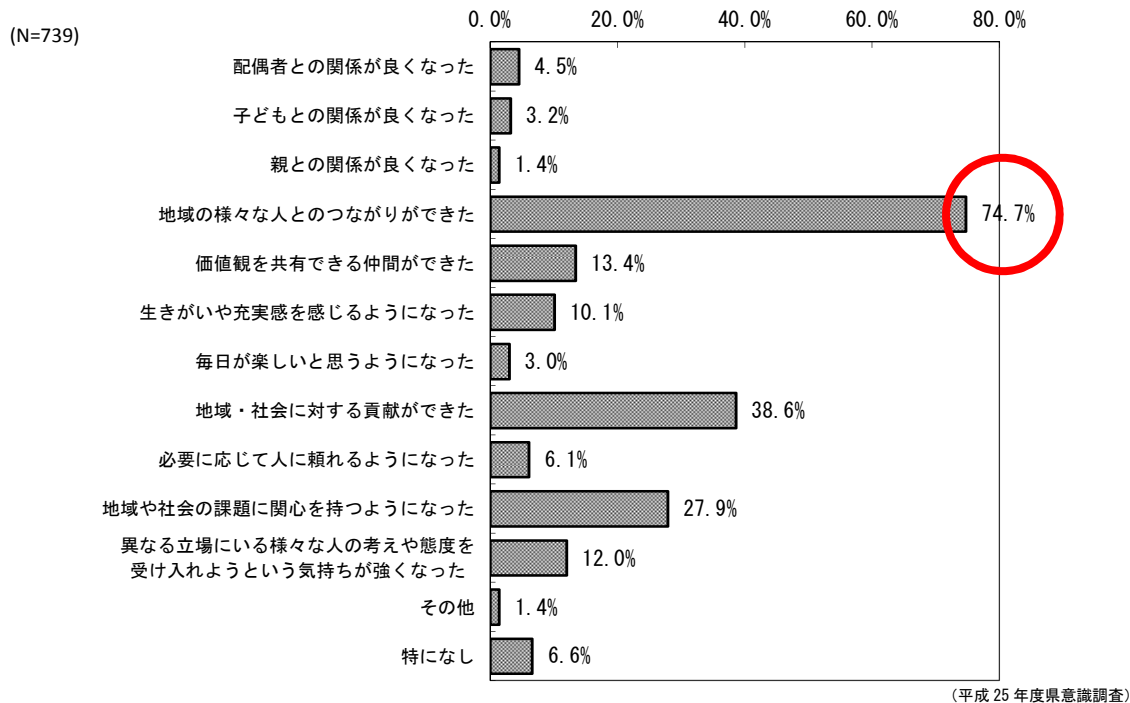


図表50 地域活動に参加するきっかけ
／男性・滋賀県（複数回答）



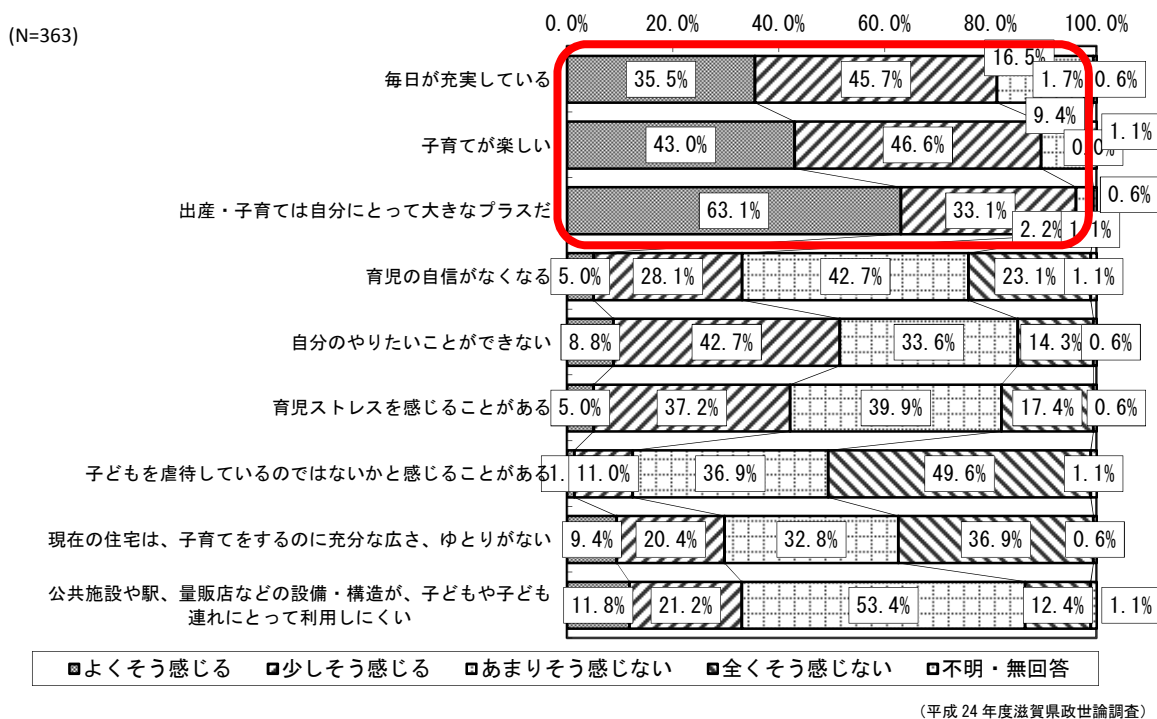
地域活動への参加が男性自身にもたらした変化・効果については、「地域の様々な人とのつながりができた」(74.7%)が最も多く、次いで、「地域・社会に対する貢献ができた」(38.6%)、「地域や社会の課題に関心を持つようになった」(27.9%)となっています。【図表 51】

図表 51 地域活動が自身にもたらした変化・効果／男性・滋賀県（複数回答）



また、県政世論調査では、0歳から中学生までの子がいる人に対して、子育てや子育て環境について感じていることをたずねたところ、「出産・子育ては自分にとってプラスだ」と思う男性の割合が96.2%と最も多くなっています。次いで、「毎日が充実している」「子育てが楽しい」などの項目も多くなっています。【図表 52】

図表 52 子育てや子育て環境について感じること／男性・滋賀県



6. 変わり始めた個人の意識 vs なかなか変わらない「世間」

(考 察)

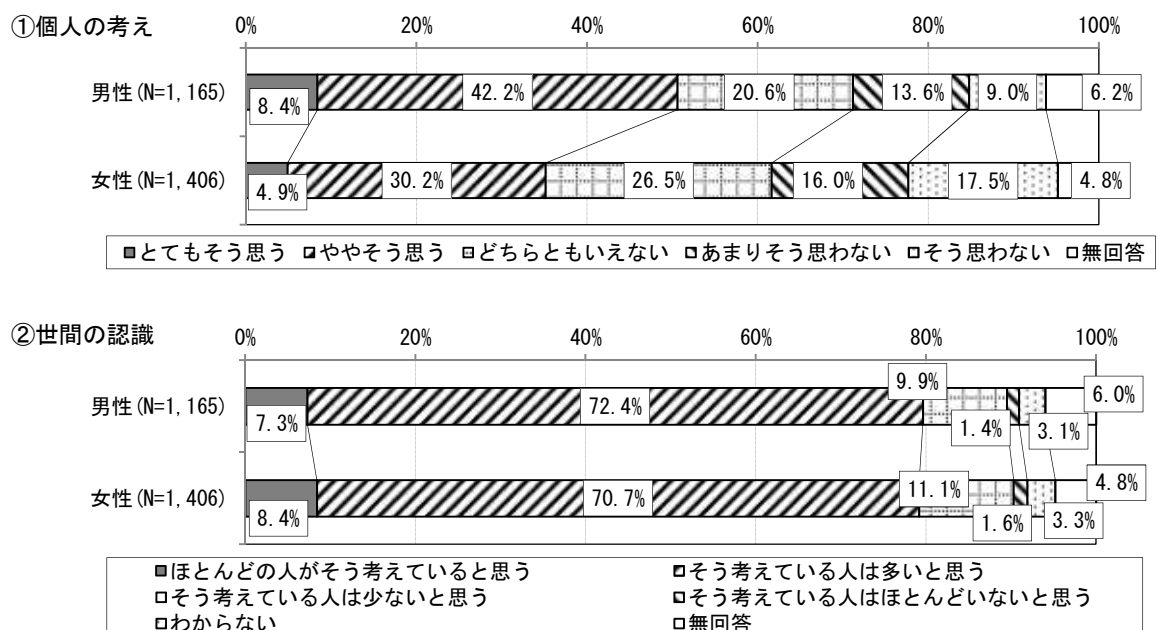
- 固定的な性別役割分担意識については、個人の考え以上に、世間には固定的な性別役割分担意識があると思われている状況がうかがえます。
- こうした意識の背景には、固定的な性別役割分担の実態が、身近なところに残っていることが影響していると考えられます。
- 社会の実態やしぐみと意識（個人の考え・世間の認識）は深く関係していることから、実態を変えるための制度や環境の整備とともに、意識への働きかけが重要です。

「家事や子どもの世話は、女性がするほうがよい」という考え方について、個人としての回答では、『そう思う』割合は男性 50.6%、女性 35.1%となっていますが、世間の多くの人の考えだと思えるかどうかについては、「世間のほとんどの人がそう考えている」と「そう考えている人が多いと思う」を合わせた割合は男女とも7割を超えています。

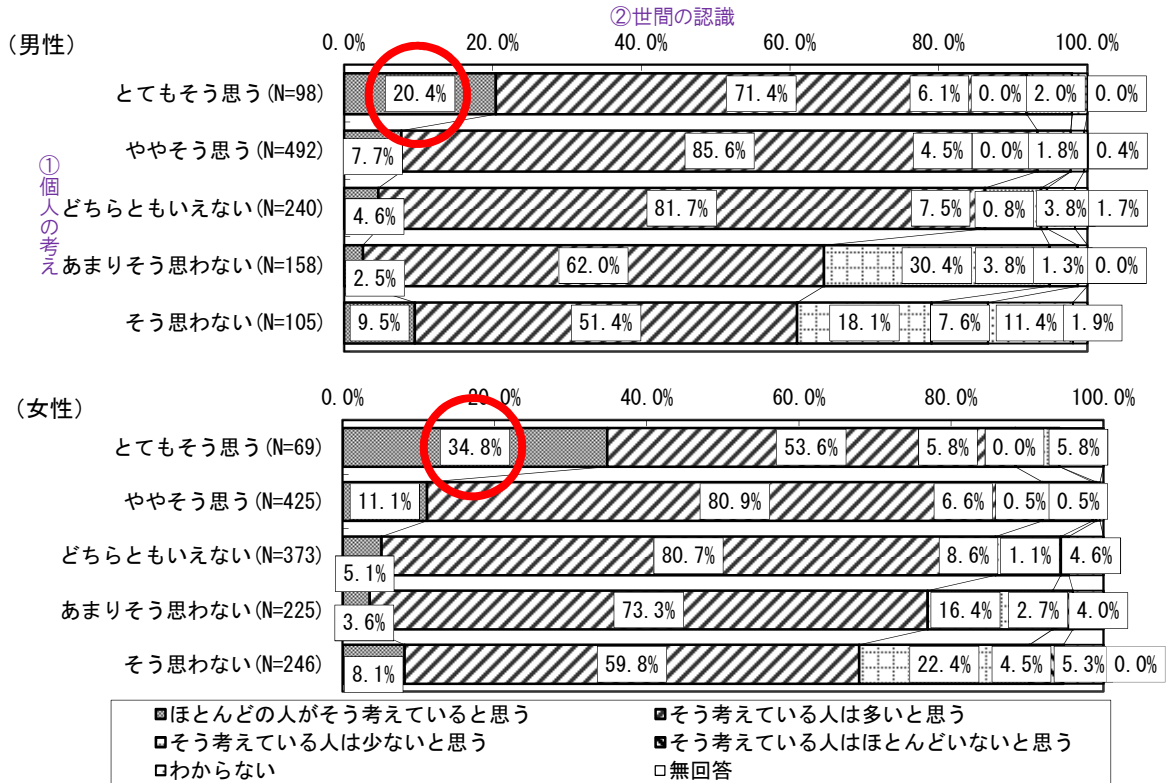
また、自身が「とてもそう思う」と回答した場合が、世間で「ほとんどの人がそう考えている」と回答した割合が最も高く、自身は「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した場合においても、世間で「ほとんどの人がそう考えている」「そう考えている人が多いと思う」と回答した割合が6割を超えています。【図表 53】

『家事や子どもの世話は、女性がするほうがよい』という考え方は、世間の多くの人の考えだと思える割合が高い背景には、家事、育児、介護等を女性が中心的に担っている状況や、育児休業取得状況の男女差が大きいことなどの社会の実態があると考えられます。【p8・9 図表 11～14】

図表 53 固定的な性別役割分担に関する個人の考え・世間の認識／男女別・滋賀県
【「家事や子どもの世話は、女性がするほうがよい」という考え方について】



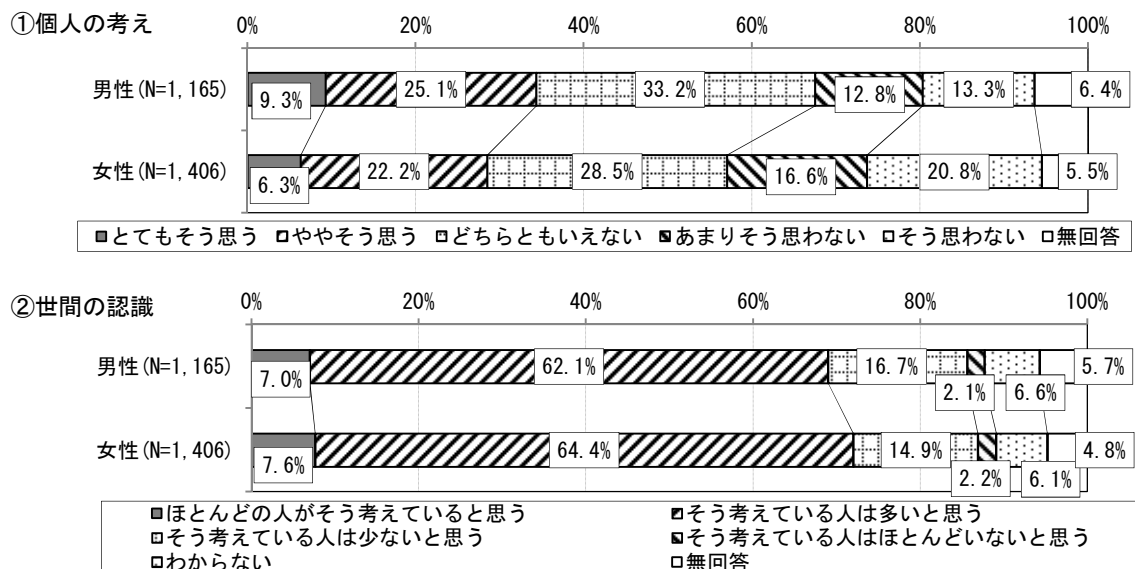
③「①個人の考え（自身の考え方）」×「②世間の認識（世間の多くの人の考えだと思うかどうか）」



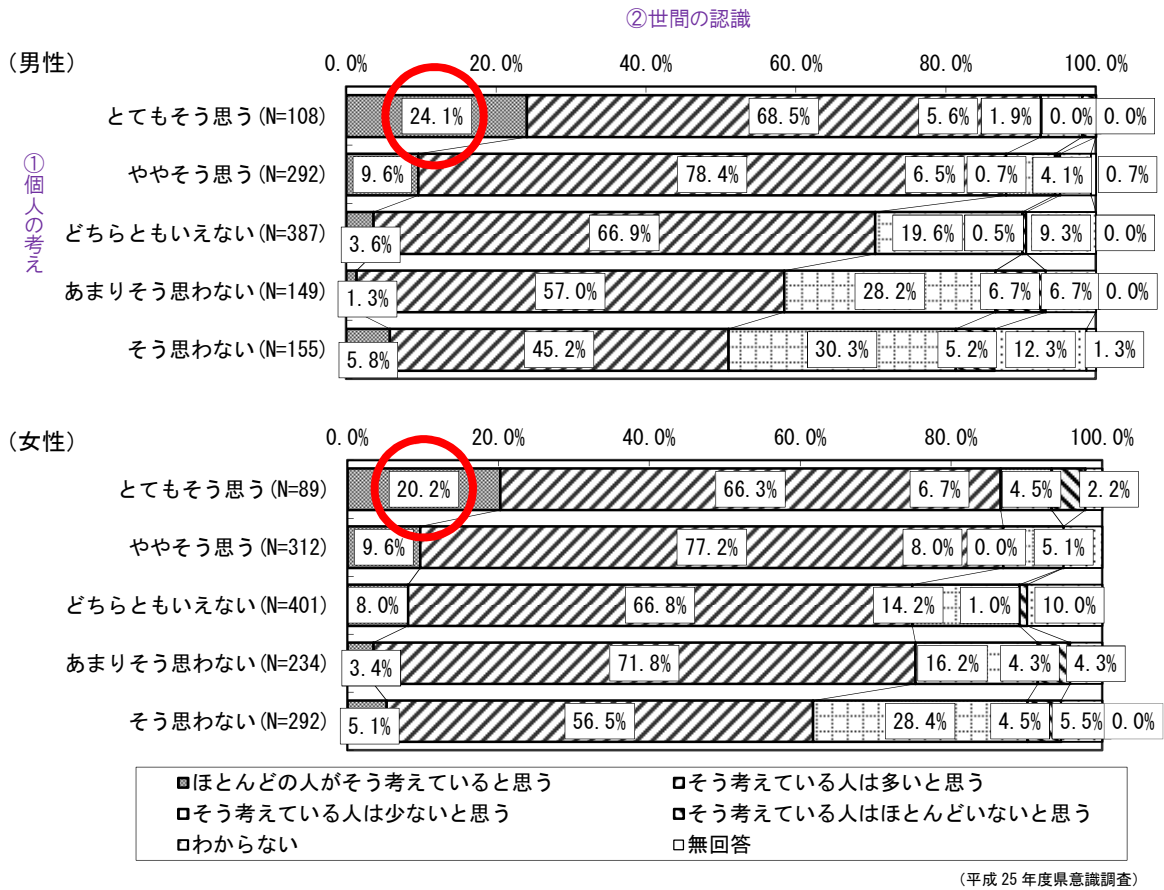
「責任ある仕事は、女性よりも男性がするほうがよい」という考え方について、『そう思う』割合は、男性 34.4%、女性 28.5%となっていますが、世間の多くの人の考えだと思うかどうかについては、「世間のほとんどの人がそう考えている」と「そう考えている人が多いと思う」を合わせた割合は男女とも約7割となっています。

また、自身が「とてもそう思う」と回答した場合、世間で「ほとんどの人がそう考えている」と回答した割合が最も高く、自身は「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した場合においても、世間で「ほとんどの人がそう考えている」「そう考えている人が多いと思う」と回答した割合が5割を超えています。【図表54】

図表54 固定的な性別役割分担に関する個人の考え・世間の認識／男女別・滋賀県
【「責任ある仕事は、女性よりも男性がするほうがよい」という考え方について】

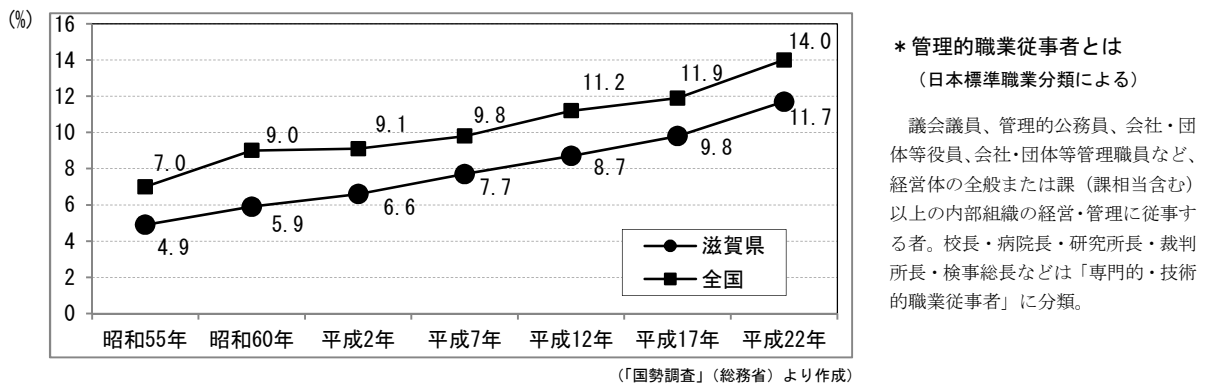


③ 「①個人の考え（自身の考え方）」 × 「②世間の認識（世間の多くの人の考えだと思うかどうか）」



『責任ある仕事は、女性よりも男性がするほうがよい』という考え方は、世間の多くの人の考えだ」と思う割合が高い背景には、管理的職業に従事する者に占める女性の割合が低いこと、自治会等においても女性が代表または副代表になることが少ないという社会の実態があると考えられます。【図表 55・56】

図表 55 管理的職業に従事する者に占める女性の割合／滋賀県・全国



図表 56 女性が代表または副代表である自治会・町内会・区等の割合の推移／滋賀県

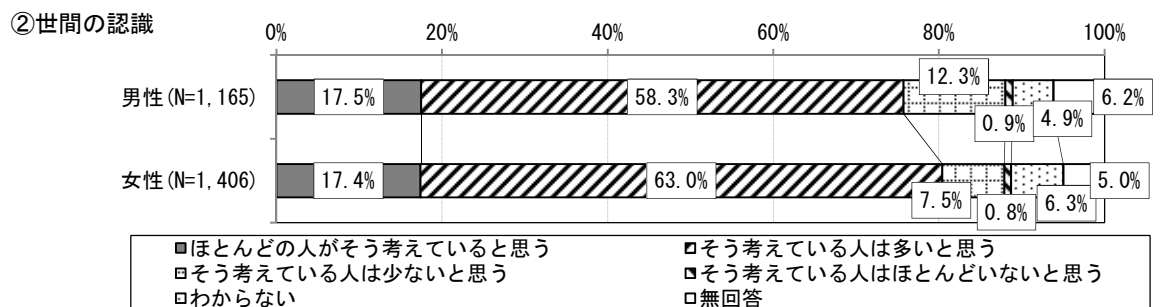
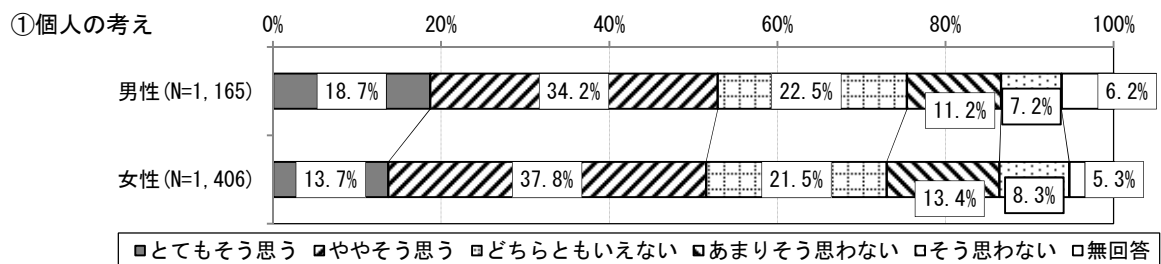
4月1日時点	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
県内市町の自治会・町内会・区等のうち、女性が代表または副代表になっている団体の割合	8.5%	9.1%	9.2%	9.5%	9.0%	9.6%

(資料：滋賀県男女共同参画課)

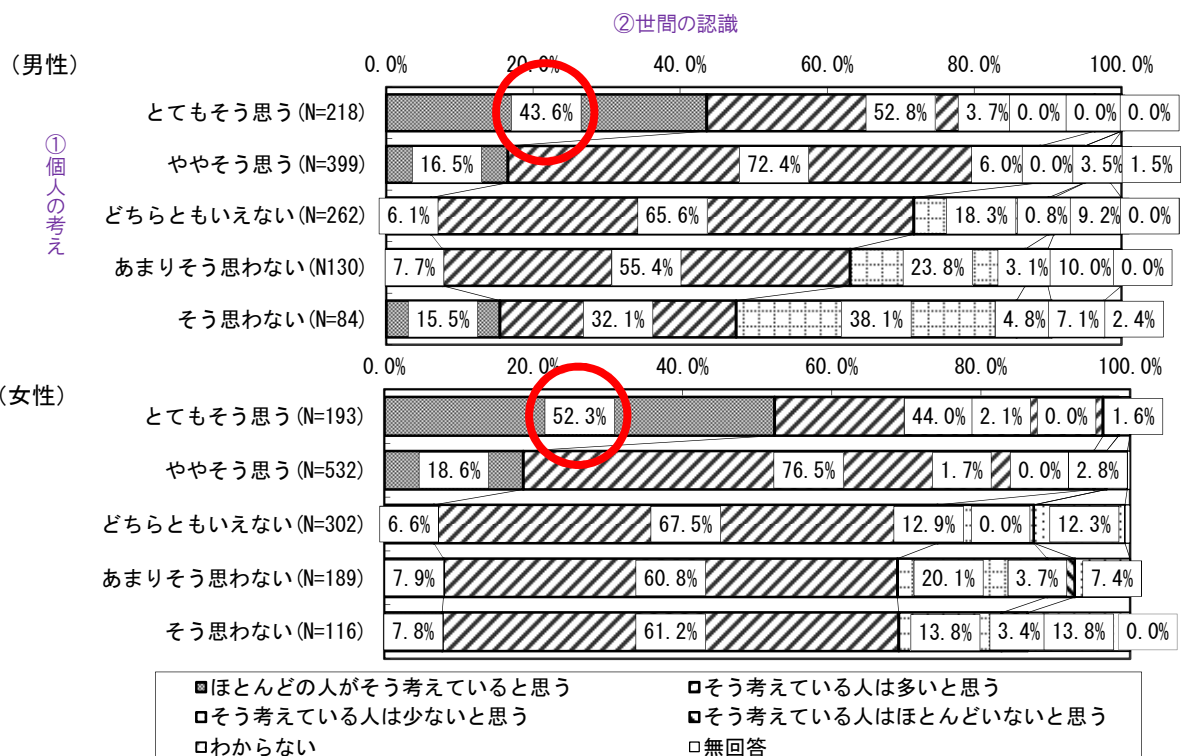
「男性は仕事における成功が重要である」「男性は弱音を吐くべきではない」という考え方について、個人の考え（自身の考え方）への回答別にみても、男性の場合、自身は「とてもそう思う」と回答した人が、世間の認識（世間の多くの人の考えだと思いかどうか）として「世間のほとんどの人がそう考えている」と回答した割合が4割を超えています。女性の場合も同様の傾向がみられます。

また、自身が「とてもそう思う」と回答した場合、世間で「ほとんどの人がそう考えている」と回答した割合が最も高く、自身は「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した場合においても、世間で「ほとんどの人がそう考えている」「そう考えている人が多いと思う」と回答した割合が4割を超えています。【図表 57・58】

図表 57 固定的な性別役割分担に関する個人の考え・世間の認識／男女別・滋賀県
【「男性は仕事における成功が重要である」という考え方について】

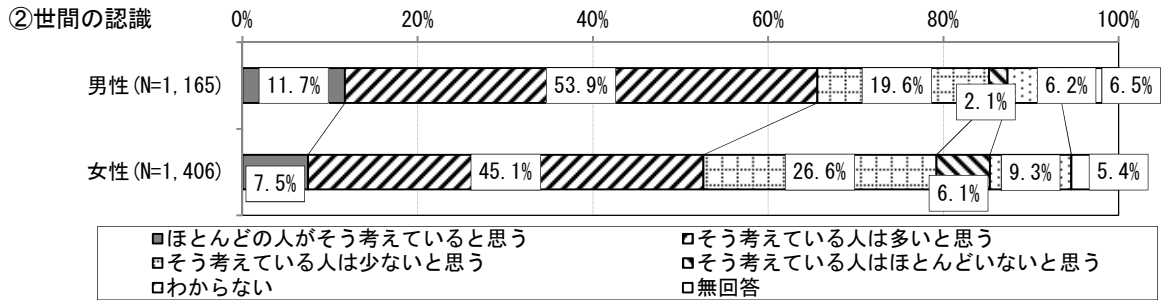
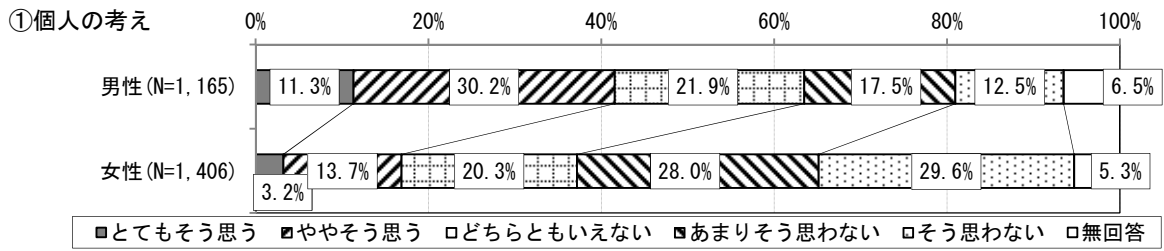


③「①個人の考え（自身の考え方）」×「②世間の認識（世間の多くの人の考えだと思いかどうか）」

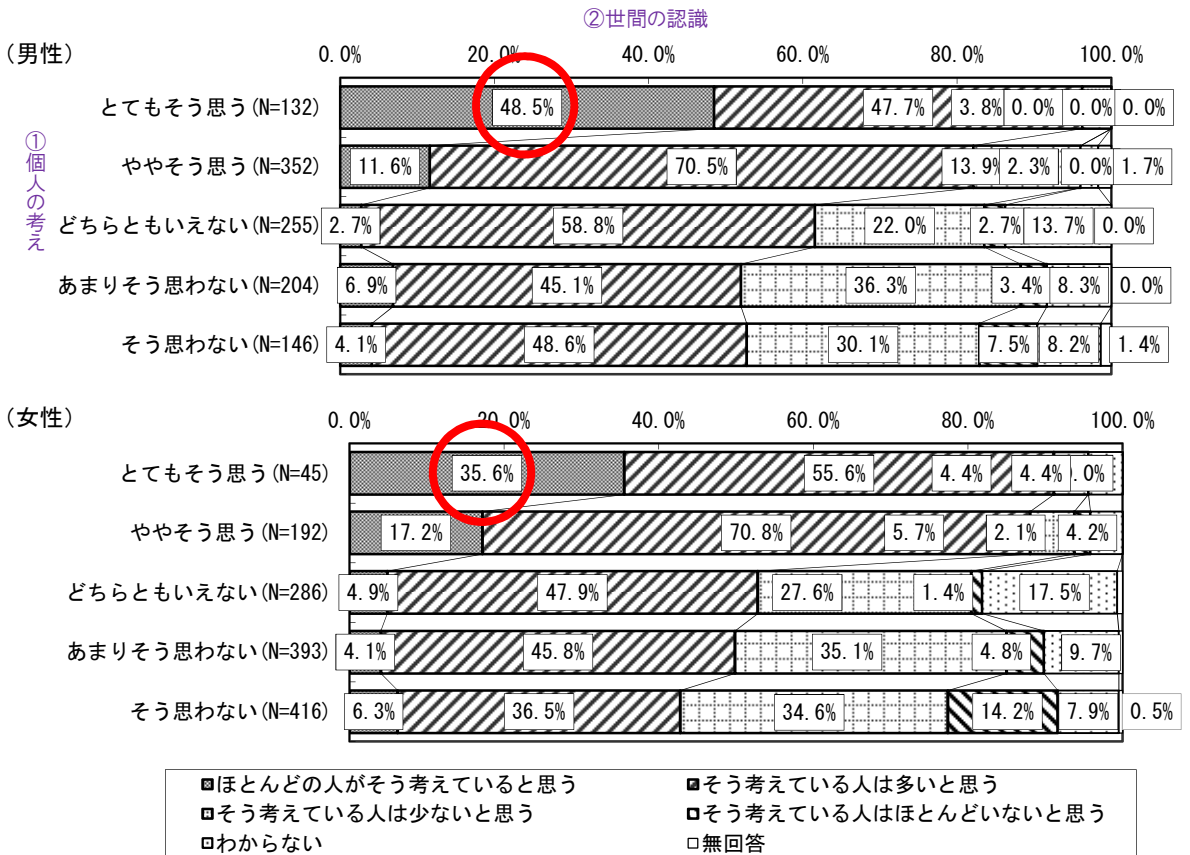


(平成 25 年度県意識調査)

図表 58 固定的な性別役割分担に関する個人の考え・世間の認識／男女別・滋賀県
 【「男性は弱音を吐くべきではない」という考え方について】



③ 「①個人の考え（自身の考え方）」 × 「②世間の認識（世間の多くの人の考えだと思うかどうか）」



7. 施策展開の方向性

「2. 男性へのヒアリング調査の結果概要」、「3. 男性の行動と意識の現状」、「4. 男性の固定的な性別役割分担意識に影響を及ぼすもの」からみえてきた現状と課題、また「5. 変わり始めている男性の意識」、「6. 変わり始めた個人の意識 vs なかなか変わらない『世間』」として整理したポイントを踏まえ、男性自身が、自分の人生にプラスになるものとして男女共同参画の意義を理解し、多様で豊かな人生を送ることができるよう、滋賀県における施策展開の方向性を以下のとおり提案します。

1. 子どもや若者が男女共同参画を体験的に理解する機会の充実

(1) 多様な生き方について考える親子のコミュニケーションを活発にする

男性は、子どものときから「仕事での成功」「経済力」「弱音を吐くべきではない」といった「男性はこうあるべき」という期待を感じながら成長し、大人になってからも重圧を受け、他人に相談ができずに悩みを抱えるといった傾向がみられます。

その背景には、親が子どもに対して固定的な性別役割分担を前提とした生き方を期待する傾向があることから、男女共同参画の実現により、子どもたちが性別によって活動や生き方の選択が制約されることなく個性と能力を発揮できるようになるという理解を、親自身が深めることが大切です。その上で、多様な生き方について親子で話し合う機会を積極的につくっていくことが求められます。

(2) 多様な生き方や働き方について学べる体験・実習を増やす

これまでの男女共同参画に関する学校教育での取組により、固定的な性別役割分担意識の解消につながる若い世代の変化がみられます。また、家事や育児等の体験を通じて得られる楽しさや自身の成長の実感などが意識の変化をもたらすと期待されます。

そのため、今後は様々な機会を通じて家事・育児・介護等の体験・実習の機会を増やすことが大切です。具体的に将来の生き方や働き方を考える時期には、男性も女性も、固定的な性別役割分担意識にとらわれない自分らしいキャリア(仕事)とライフ(生活)を考えたり、イメージしたりできるよう、多様な生き方・働き方の体験や経験者の話を聞いたり、話し合ったりする機会を提供することが重要です。

2. 男性の多様な生き方を応援するコミュニケーションの場づくり

(1) 男女の生き方やそれぞれの思いを語り合う機会を増やす

女性より男性の方に「男性はこうあるべき」という意識が強い傾向がみられることや、固定的な性別役割分担に関する個人の考えとその人の世間の認識に違いがみられる場合があることから、夫婦間、地域の集まり、職場内などの身近な場面で、男女の生き方やそれぞれの思いについて率直に語り合う機会を増やし、思い込みや先入観を変えていくことが重要です。

また、男女の成熟したパートナーシップについて考えるため、人生の転機に備えた男性の生活面での自立、女性の家計責任に関する意識などについて学ぶ機会を提供することが大切です。

(2) 男性の家庭や地域での充実感を「見える化」する

男性の意識や行動に変化がみられてきており、男性が子育てや地域活動などの場面で、固定的な性別役割分担意識にとらわれず生き生きと暮らしている姿が少しずつ増えてきています。そうした事例のプラス面を積極的に伝えることにより、世間の認識を変えていくことが重要です。

(3) 男性の多様な生き方を応援するキーパーソンを増やす

働き手や稼ぎ手は男性で、女性は家庭を守るまたは家計の補助的に働くという意識が強い職場や地域においては、長時間労働が恒常化したり、男性が育児休業を取得することについて周囲から理解を得られなかったり、男性が望んでも、家庭生活や地域生活への参画が困難となることなどが考えられます。

こうした状況を変えるためには、男女共同参画の実現が男性自身にとっても、職場や地域社会にとってもプラスになるということを理解し、男性の多様な生き方を応援するキーパーソンが必要です。

例えば、職場においては、男性も女性も、仕事と育児・介護・地域活動などの両立ができるようにするためのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進や男女の人事配置の偏りの見直しによるダイバーシティ（多様な人材の積極的な活用）、男女がそれぞれの思いを語り合う場づくりなどについて、経営層や管理職・リーダー層がキーパーソンとなり、率先して取り組むことが重要です。そのため、男性にとって影響力のある職場や地域におけるリーダー層がキーパーソンの役割を担えるよう、研修等を行うことが求められます。

3. 「男性にとっての男女共同参画」につながる相談窓口へ

(1) 男性が相談しやすい雰囲気をつくる

男性が不安や悩みを相談するということは、「男だからこうあるべき」という意識を変えるきっかけであり、不安や悩みの解決が、男性自身の幸せ、すなわち「男性にとっての男女共同参画」につながるものといえます。

男性は悩みを抱え込みやすい傾向があるため、悩みを打ち明けることへの抵抗感をなくすための啓発を行い、男性のニーズに応じた多様な相談方法や体制を整えるとともに、相談窓口等について周知することが重要です。

(2) 相談員のスキルアップ・相談の専門家の連携を進める

相談窓口においては、男性の固定的な性別役割分担意識を理解したうえで対応ができるよう、相談員のスキルアップを図ることが必要です。また、男性の希望が多い専門家（法律、医療、福祉等）への相談については、適切な専門家につなぐことができるよう連携を進めることが重要です。

8. おわりに ～ 男性が変われば、社会が変わる。～

男性優位の制度・慣行や固定的性別役割分担意識によって女性が社会参画を阻まれてきた問題は、男性が「男は仕事」、「男は強くなければならない」といった役割に縛られてきたことと表裏一体です。しかし、「男女共同参画社会」が男性にとっても生きやすい社会になるという認識はほとんどされていない状況です。

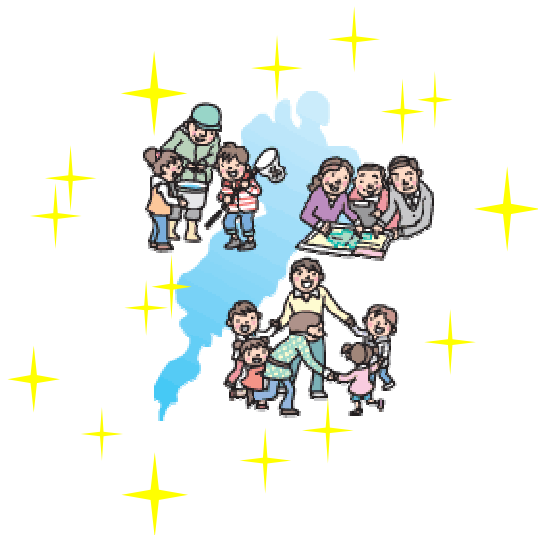
今回の提言では、男女共同参画が実現することは、男性が重圧から解放され、自分らしい生き方を選択でき、精神的な豊かさや人間としての成熟を感じられることにつながるものであり、男性自身にも利点があるという理解を促すことを念頭に検討を進めてきました。

ヒアリング調査や意識調査の結果から、男性は行動においても意識においても「仕事」の占めるウエイトが大きいことが明らかになりました。また、「働き手や稼ぎ手は男性で、女性は家庭を守るまたは家計の補助的に働く」という固定的な性別役割分担意識が男性の長時間労働にもつながっているとみられ、男性の家庭生活や地域生活への参画が難しくなっていることがわかりました。さらに、男性の固定的な性別役割分担意識に影響を及ぼすと考えられるものとして、男性が子どものときから経済的役割を果たす生き方を期待される傾向があること、また、女性に残っている固定的な性別役割分担意識などが見えてきました。

一方、男性の意識に変化も表れつつあり、若い世代には固定的な性別役割分担意識にとらわれない傾向がみられ、地域活動など様々な経験を通じた生活の充実感が男性の意識に変化をもたらす可能性もうかがえました。また、今回の意識調査や検討を通じて、個人の意識とその人の世間の認識に違いがみられる場合があることがわかり、社会を形成する制度や環境の整備とともに、意識への働きかけも重要であることを改めて認識しました。

これらを踏まえ、今後の施策展開の方向性として、「子どもや若者が男女共同参画を体験的に理解する機会の充実」、「男性の多様な生き方を応援するコミュニケーションの場づくり」、「『男性にとっての男女共同参画』につながる相談窓口へ」の3点を提言としてまとめました。

滋賀県男女共同参画推進条例では、前文に「男女が共に輝いて生きることが出来る湖国を創るため」と謳われています。自分の人生にプラスになるものとして男女共同参画の意義を理解し、行動する男性が増えれば、男女が共に支え合う真のパートナーとなるために、男性優位の制度・慣行を見直す方向へ社会を動かす大きな力になります。県におかれては、今回の提言の趣旨を十分に理解され、「女性の活躍」と「男性の多様で豊かな人生の実現」という両輪で男女共同参画社会づくりをめざし、積極的に推進されることを期待するものです。



9. 検討の概要

(1) 滋賀県男女共同参画審議会委員（第6期：平成24年7月1日～平成26年6月30日）

会 長

伊藤 公雄 京都大学大学院文学研究科教授

委 員（五十音順、敬称略）

石原 慶子 湖南省立菩提寺小学校 校長

岡部 弘 公募委員

京樂 真帆子 滋賀県立大学人間文化学部 教授

草野 勉 新江州株式会社 代表取締役社長

國松 典子 臨床心理士

小宮 佑貴 公募委員

小山 英則 弁護士

新庄 博志 おおつ男性会議 代表世話人

津止 正敏 立命館大学産業社会学部 教授

那須 信子 株式会社農環 代表取締役

廣瀬 香織 子育て情報誌ピースマム 編集長

堀 裕子 行政書士

槇村 久子 京都女子大学 宗教・文化研究所 客員教授

(2) 検討の経過

第1回 平成24年 9月 5日

第2回 平成24年11月12日

(平成25年 1月～2月 ヒアリング調査)

第3回 平成25年 3月13日

第4回 平成25年 6月11日

(平成25年10月4日～28日 県民意識調査)

第5回 平成25年12月25日

第6回 平成26年 3月17日

第7回 平成26年 6月19日

(3) 参考資料一覧

- 平成25年度滋賀県男女共同参画に関する意識調査

調査地域：県内全域（全市町から対象者を抽出）

調査対象：県内在住の20歳以上の男女3,000人

調査方法：郵送調査（平成25年10月4日～10月28日）

有効回収率：全体 45.0%（1,349件）

- 平成21年度男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）
- 平成23年社会生活基本調査
- 平成24年就業構造基本調査（総務省）
- 労働環境等実態調査（滋賀県）
- 平成24年度滋賀県政世論調査